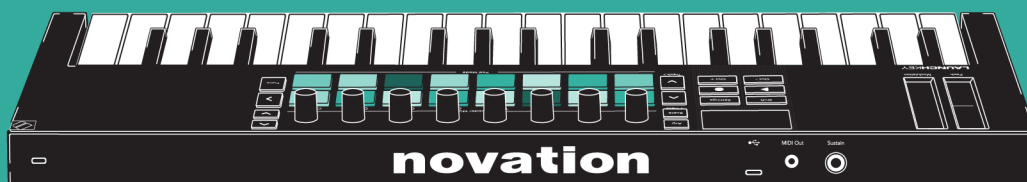
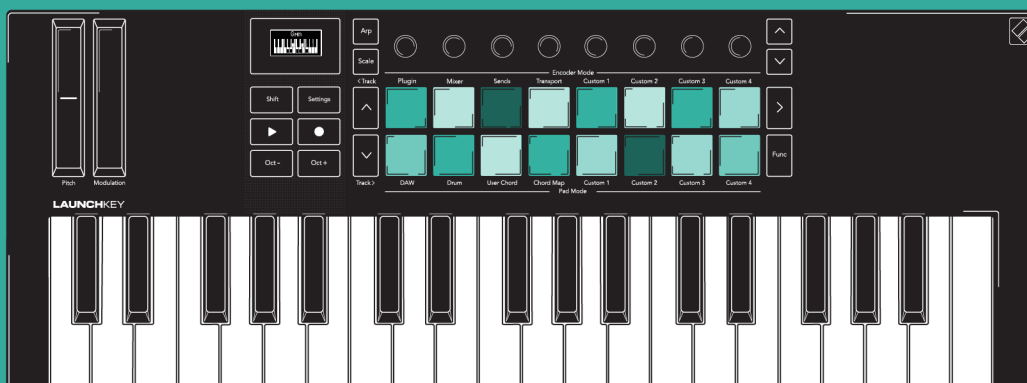


LAUNCHKEY MINI

37



目次

Launchkey Mini 37 - はじめに	4
同梱物	4
Launchkey Mini 37 の使用を開始する	5
接続と電源供給	5
イージースタート	6
Novation Components とは？	7
トラブルシューティング	8
Launchkey Mini 37 ハードウェア概要	9
Shift ボタン	12
修飾ボタンのラッチ	13
Launchkey Mini 37 の鍵盤で演奏する	14
オクターブを変更する	14
キーのトランスポーズ	15
Launchkey Mini 37 のコントロール・セクション	16
エンコーダーモード	17
パッドモード	19
スケールモードを使用する	32
スケールを変更する	32
スケール	33
Snap to Scale (スナップ・トゥ・スケール)	33
Filter out of Scale (スケールフィルター)	33
Easy Scale (イージースケール)	33
コードモードを使用する	34
ユーザーコード・モード	35
固定コードモード	37
アルペジエーター (Arp) を使用する	38
アルペジオ・コントロール	39
アルペジオ・テンポ	39
アルペジオスウィング	40
アルペジオ・レート	40
アルペジオ・ゲート	41
アルペジオ・タイプ	41
アルペジオ・オクターブ	41
アルペジオ・ミューテート	41
アルペジオリズム	42
アルペジオ・パターン・モード	42

Launchkey Mini 37 の設定	46
Launchkey Mini 37 による DAW のコントロール	48
一般的な DAW コントロール	48
DAW エンコーダーモード	50
DAW およびドラムパッドモード	53
トランスポートボタン	55
Ableton Live を Launchkey Mini 37 でコントロールする	56
Ableton Live のナビゲーション	56
Ableton Live エンコーダーモード	57
Ableton Live パッドモード	59
Ableton Live トランスポート・コントロール	67
Ableton Live グローバルスケール	68
Logic Pro を Launchkey Mini 37 でコントロールする	69
Logic Pro : エンコーダーモード	69
Logic Pro パッドモード	72
Cubase を Launchkey でコントロールする	76
Logic Pro : エンコーダーモード	76
Cubase パッドモード	79
FL Studio を Launchkey Mini 37 でコントロールする	81
FL Studio エンコーダーモード	81
FL Studio DAW パッドモード	84
Launchkey Mini 37 仕様	85
重量および寸法	85
技術仕様	86
その他の情報	87
トラブルシューティング	87
商標	87
免責事項	87
著作権および法定通知	87
謝辞	89

Launchkey Mini 37 - はじめに

Launchkey Mini 37 を使い、音楽ソフトウェアを自由自在にコントロールできます。主要な DAW で簡単に使用でき、視認性の高い OLED、シンセアクション・ ミニキーベッド、16 個のペロシティ・ センシティブ・ パッドのほか、パワフルでクリエイティブなツールを多数搭載します。

- **DAW を詳細にコントロール**

Ableton Live、Logic Pro、FL Studio、Cubase、Reaper、Reason、Ardour などの DAW をセットアップ不要でパワフルにコントロール。

- **ソフトウェアのコントロール**

8 つのエンコーダーで、お使いの DAW のミキサー、バーチャルインストゥルメント、エフェクトを素早くコントロール可能。

- **高品質なキーベッド**

演奏しやすく感性を刺激する 37 鍵シンセアクション・ ミニキーボードを搭載。

- **ドラムやインストゥルメントを演奏**

16 個のポリアフタータッチ対応ペロシティ・ センシティブ・ パッドで、ドラムやインストゥルメントを演奏できます (独自特許技術採用のパッド)。

- **コードやパターンを生み出すパワフルなツール**

アルペジエーターや 3 つのコードモード (固定コード、ユーザーコード、コードマップ) を備え、曲作りが簡単に行えます。

- **正しいキーを常にキープ**

常に設定したキーを維持するスケールモード - コードディテクターにより演奏中のコードを確認できます。

- **外部機器に接続**

- **付属ソフトウェア**

Ableton Live Lite のほか、プロ品質のバーチャル・ インストゥルメントが付属。付属ソフトウェアに関する詳細は、novationmusic.com/launchkey にて確認できます。

同梱物

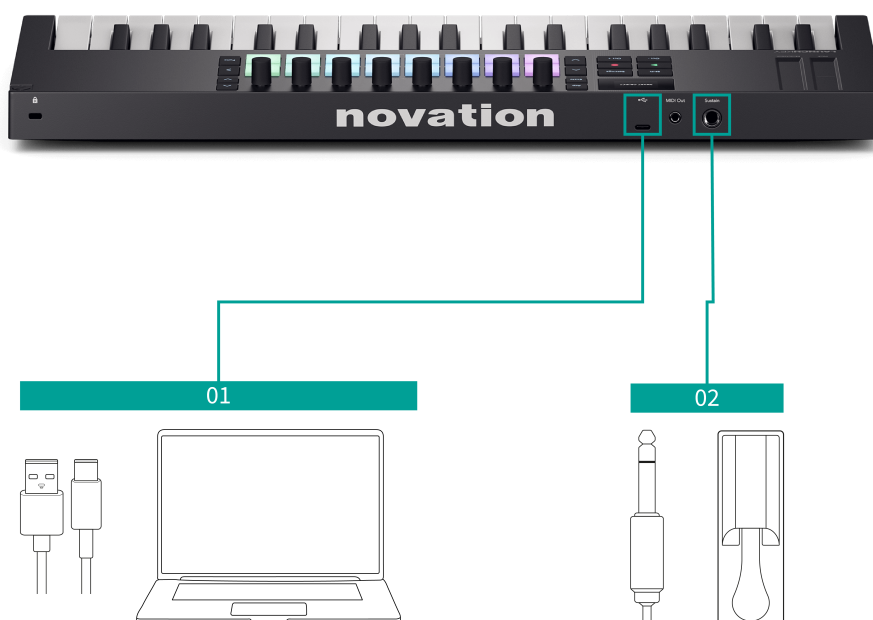
- Launchkey Mini 37
- 1.5 m USB-C - USB -A ケーブル

Launchkey Mini 37 の使用を開始する

接続と電源供給

Launchkey は USB バスパワーに対応します。USB-C - USB-A ケーブルでコンピュータに接続すると、本体の電源がオンになります。

また、Launchkey は 6.35mm (1/4 インチ) サステイン入カジャックも備えます。サステインペダルやモーメンタリー・フットスイッチを接続できます(2)。

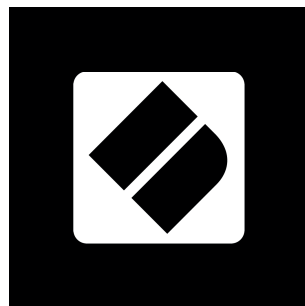


イージースタート

イージースタートは、Launchkey を手順に沿ってセットアップし、Launchkey の使用用途に応じてパーソナライズされたチュートリアルを作成できるオンラインツールです。また、Launchkey の製品登録やバンドルソフトウェアのダウンロードなども行えます。

Windows または Mac に Launchkey を接続すると、本体が USB ドライブのような大容量記憶装置 (MSD) としてマウントされます。ドライブを開き、「Launchkey - Getting Started.html」をダブルクリックします。「Get Started」をクリックすると、イージースタートがウェブブラウザで開かれます。

画面の指示に従い必要なソフトウェアをインストールし、Launchkey を使用する準備を行います。



イージースタートツールを使用せずに、Novation ウェブサイトで FLkey の製品登録やバンドルソフトウェアのダウンロードを行うことも可能です。

id.focusritegroup.com/register <https://id.focusritegroup.com/en/register>



重要

Launchkey を最初に接続する際は、イージースタートを使用しない場合でも、ファームウェアをアップデートすることを強くお勧めします。

Launchkey のファームウェアをアップデートしないと、多くの機能が動作しない可能性があります。

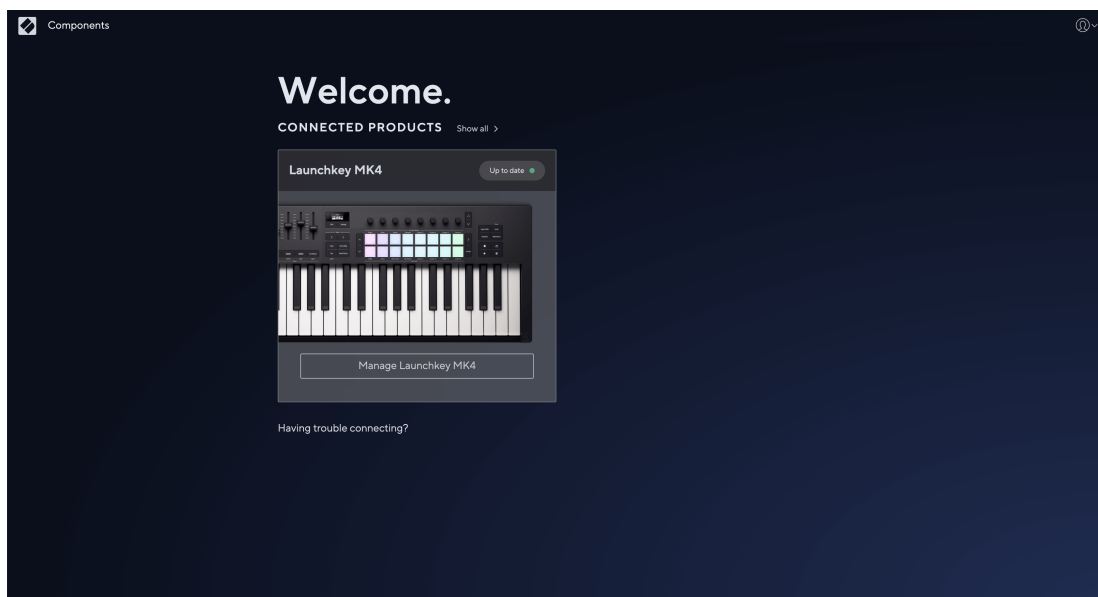
Launchkey のファームウェアのアップデートには、Novation Components を使用します。components.novationmusic.com にアクセスし、ファームウェアをアップデートしてください。

Novation Components の詳細は、[Novation Components とは？ \[7\]](#)をご参照ください。

Novation Components とは？

Novation Components を使うと、ワークフローや使用環境に合わせて Launchkey をカスタマイズできます。Components には、デスクトップ版 (Components スタンドアローン版) とウェブ版の 2 種類があります。ウェブ版を使用するには、Web MIDI 対応ブラウザ (Google Chrome や Opera など) が必要です。Components のスタンドアローン版、ウェブ版はいずれも以下からアクセスできます。

components.novationmusic.com



Novation Components の主な機能は以下の通りです。

1. **ファームウェア・アップデート** : Launchkey のファームウェア・アップデートは、Novation Components で行います。アップデートを実行すると、最新機能の追加、改善やバグフィックスの適用が行われます。ご購入後 Launchkey を初めてお使いになる際は、最初にファームウェア・アップデートを実行することを推奨します。ファームウェアが最新でない場合、一部の機能が正しく動作しない可能性があります。
2. **カスタムモード** : Novation Components を使用すると、Launchkey の MIDI マッピングをカスタマイズできます。良く使う機能をお好きなエンコーダーやパッドに割り当てることができ、使用環境にマッチした効率的なワークフローを実現できます。
3. **バックアップおよび復元** : Novation Components では Launchkey の設定をバックアップして保存できます。保存済みの設定の復元や、別の Launchkey への設定の移行をシンプルかつ効率的に行えます。

トラブルシューティング

Launchkey を使い始めるためのヘルプが必要な場合は、こちらをご参照ください：

novationmusic.com/get-started

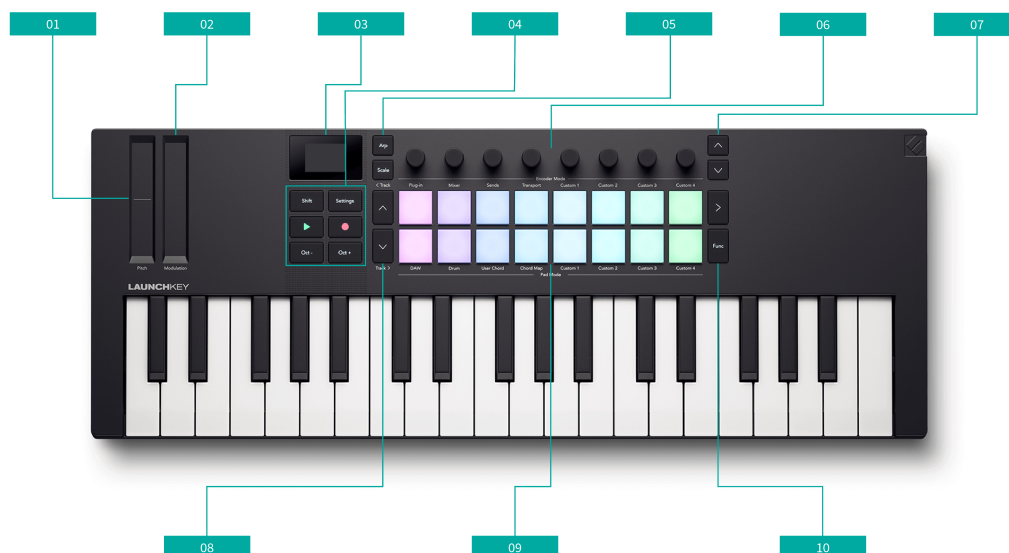
Launchkey に関して不明な点がある場合には、いつでもヘルプセンターをご利用いただけます。また、以下の URL からサポートチームにお問い合わせいただくことも可能です：

support.novationmusic.com

のアップデートを確認することをお勧めします。Launchkey 最新の機能と修正が適用されます。を更新するには Launchkey のファームウェアを使用する必要があります。コンポーネント：

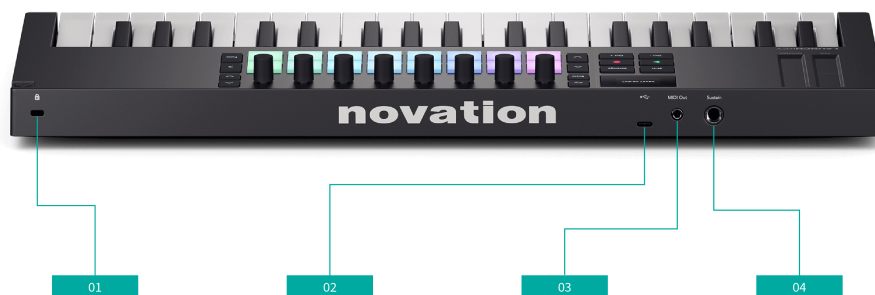
[コンポーネント.novationmusic.com](https://novationmusic.com)


Launchkey Mini 37 ハードウェア概要



1. Pitch (ピッチ) タッチストリップ - 演奏中のノートにピッチベンドを適用すると同時に、ピッチベンド・メッセージを出力します。
2. Modulation (モジュレーション) タッチストリップ - タッチ対応ストリップであるあらゆるハードウェアおよびソフトウェアのパラメーターをコントロールできます。
3. ディスプレイ - 重要な情報を分かりやすく表示します。
4. ディスプレイ下部の6つのボタンは以下の通りです (左から右、上から下)。
 - Shift ボタン - 各ボタンの二次的な機能 (フロントパネルに記載) を実行します。 [12] [12]
 - Settings ボタン - 設定メニューを開きます。 [46] [46]
 - Transport ボタン - DAW やシーケンサーを制御するための再生/録音ボタン。 [55] [55]
 - Octave + / Octave - ボタン - 鍵盤をオクターブ単位でトランスポートします。Octave + ボタンと Octave - ボタンを同時に押すと、デフォルトのオクターブにリセットされます。 [14] [14]
5. エンコーダー左側の2つのボタン：
 - Arp ボタン - Launchkey 内蔵アルペジエーターを有効にし、コントロールします。 [38] [38]
 - Scale ボタン - スケールモードを有効にします。 [32] [32]
6. エンコーダー - 割り当て可能なエンコーダーによるコントロールを行います。 [17] [17]

7. エンコーダーバンク・ アップ「∧」 /ダウン「∨」 ボタン -エンコーダー右側にある 2 つのボタンで、エンコーダーのバンクを上下に切り替えます。
8. パッドバンク・ アップ「∧」 /ダウン「∨」 ボタン -パッドの左側にあるこれらのボタンでパッドを上下に切り替えます (Ableton Live クリップの移動、コードの切り替え等)。
Shift を押しながらアップ/ダウンボタンを押すと、DAW のトラックを移動できます。
9. **パッド - 16 のパッドで選択中のモードに応じた操作を入力します。 [19][19]**
10. パッド右側の 2 つのボタン :
 - ・ > ボタン - 上段のパッド右側に配置されたシーンローンチ・ ボタン。
 - ・ Func ボタン - パッドモードに応じた様々な二次機能を有効にします。



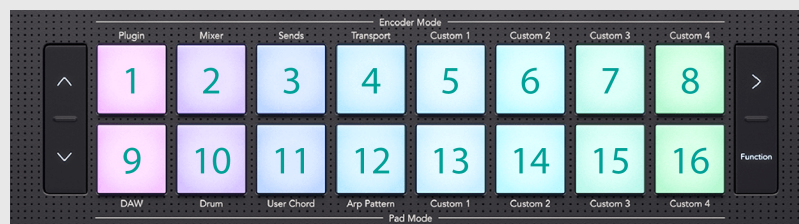
1.  - ケンジントンロック。Launchkey を固定し、盗難から守ります。
2. USB ポート - USB Type-C ポート : データの送受信および、Launchkey への電源供給を行います。
3. MIDI Out ポート (TRS Type-A
4. Sustain 入力 - サステインペダルを接続します (エクスプレッション・ ペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルには対応しません)。



ドラムパッドの用語

本ユーザーガイドでは、ドラムパッドの各コントロールを以下の様に記載します。

- パッドの左側にある2つのボタンは、パッドバンクのアップ/ダウン・ボタンです。
- パッドは左から右に向かって番号が振られています。上段のパッドは1~8、下段のパッドは9~16となっています。
- パッドの右側にある2つのボタンは、>シーンローンチ・ボタンと Function ボタンです。



Shift ボタン

Launchkey の Shift ボタンを使用すると、多くのボタンで二次的な機能にアクセスできます。二次機能にアクセスするには、Shift ボタンを押しながら目的のボタンを押します。以下は Shift ボタンによる各ボタンの二次機能のリストです。一部の機能は、使用する DAW によって動作が異なります。

Shift ボタンは、各エンコーダーやフェーダーの設定値の確認にも使用できます。Shift ボタンを押しながらフェーダーやエンコーダーを動かすと、値は変更されせずにパラメーター名と値がディスプレイに表示されます。



注記

Shift ボタンを長押しすると、Shift 機能が利用できるすべてのボタンが点灯します。

表 1 各ボタンの Shift 機能

組み合わせ	機能
Shift + Octave +	トランスポーズ + [15] [15]
Shift + Octave -	トランスポーズ - [15] [15]
Shift + < Track ボタン	< Dawトラックを左に移動 [49] [49]
Shift + > Track ボタン	> Dawトラックを右に移動 [49] [49]
Shift + Arp	ラッチ [38] [38]
Shift + Scale	固定コードモード #UUID-d10cd56f-bc95-3496-556c-0a188ec0af56 [37] [37]

表 2 パッドの Shift 機能

組み合わせ	機能
Shift + パッド 1	エンコーダーモード : Plugin [50] [50]
Shift + パッド 2	エンコーダーモード : Mixer
Shift + パッド 3	エンコーダーモード : Sends
Shift + パッド 4	エンコーダーモード : Transport [51] [51]
Shift + パッド 5	エンコーダーモード : Custom 1 [18] [18]
Shift + パッド 6	エンコーダーモード : Custom 2 [18] [18]
Shift + パッド 7	エンコーダーモード : Custom 3 [18] [18]
Shift + パッド 8	エンコーダーモード : Custom 4 [18] [18]
Shift + パッド 9	パッドモード : DAW #UUID-d0faf215-3f12-165c-32f8-33ffc1951275 [48] [48]
Shift + パッド 10	パッドモード : Drum [53] [53]
Shift + パッド 11	パッドモード : User Chord [29] [29]
Shift + パッド 12	<i>[en] Pad Mode: Chord Map [21]</i>
Shift + パッド 13	パッドモード : Custom 1 [31] [31]
Shift + パッド 14	パッドモード : Custom 2 [31] [31]
Shift + パッド 15	パッドモード : Custom 3 [31] [31]
Shift + パッド 16	パッドモード : Custom 4 [31] [31]

修飾ボタンのラッチ

Launchkey の一部の機能を有効にするには、修飾ボタン (Shift ボタン等) と組み合わせて各ボタンを押す必要があります。修飾ボタンを「ラッチ」することで、これらの機能を簡単に呼び出すことができます。目的の修飾ボタンをダブルタップする (短い時間に 2 回押す) ことでラッチを有効にできます。

以下のボタンで利用可能です。

- Shift
- Split - Shift ボタンをダブルタップしてから Split ボタンを長押しすると、スプリットポイントを簡単に選択できます。

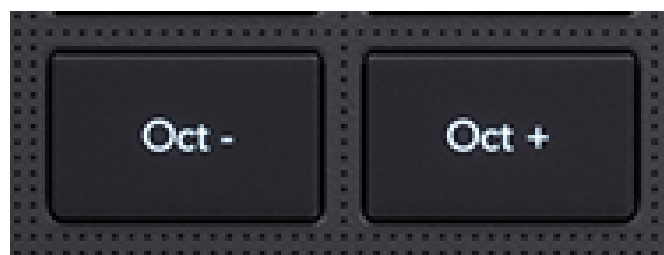
Launchkey Mini 37 の鍵盤で演奏する

Launchkey の鍵盤は、トランスポーズおよびオクターブの変更が可能です。またパート機能による演奏も行えます。パート機能を使用すると、鍵盤の分割またはレイヤー化が簡単に行え、複数の MIDI チャンネル・メッセージを送信可能になります。

オクターブを変更する

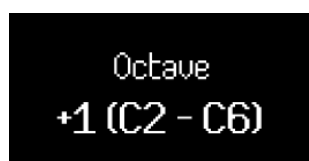
電源投入直後の Launchkey Mini 37 は、C3 が中央の C となるノート範囲 C2 - C5 で起動します (デフォルト)。

オクターブの範囲は、Octave +/- ボタンで変更します。Launchkey Mini 37 のオクターブは -4 ~ +4 オクターブ間で切り替えることができます。



変更したオクターブをデフォルトの範囲にリセットするには、Octave +/- ボタンを同時に押します。

オクターブ範囲を変更すると、変更値 (例 : +1) と現在のキーボードのオクターブ範囲 (例 : C1 - C5) がディスプレイに一時的に表示されます。



一時的な画面表示に加え、Octave ボタンの点灯によっても現在のオクターブを確認できます。

オクターブが変更されていない場合、Octave ボタンは点灯しません。オクターブを上に変更すると Octave + ボタンが、オクターブを下に変更すると Octave - ボタンが点灯します。オクターブの変更値に応じて各ボタンの輝度変化します。

MIDI ノートの総数は 128 となっています。128 は 12 で割り切れないため、一部のキーは MIDI ノートの範囲外となります。MIDI ノート範囲の上端または下端までオクターブを変更した場合、MIDI ノート範囲外に位置する鍵盤は発音しません。

キーのトランスポーズ

Launchkey Mini 37 の鍵盤を半音単位で上下にトランスポーズできます。トランスポーズの範囲は±12 セミトーン (半音) です。

鍵盤のキーをトランスポーズするには、Shift ボタンを押しながら Octave +/- ボタンを押します。Octave - ボタンを押すと半音下に、Octave + ボタンを押すと半音上にトランスポーズできます。



トランスポーズを変更すると、変更値と現在のキーボード範囲がディスプレイに一時的に表示されます。

Transpose
+1 (C#1 - C#5)

Launchkey Mini 37 のコントロール・セクション

Launchkey には、以下のコントロールが配置されています。本章ではこれらの機能について解説します。

- エンコーダー
- パッド
- トランスポートおよびワークフローボタン



エンコーダーモード

Launchkey のエンコーダーは、8 つのモードを備えます。モードを変更するには、Shift ボタンを押しながらパッド 1~8 を押します。

一部のモードは、DAW 使用中にのみ利用できます。詳細は、お使いの DAW に関する章をご参照ください。

以下のエンコーダーモードを利用可能です。

ドラムパッド番号	モード	利用可否
1	Plugin	DAW モードのみ
2	Mixer	DAW モードのみ
3	Sends	DAW モードのみ
4	Transport	DAW モードのみ
5	Custom 1	常時
6	Custom 2	常時
7	Custom 3	常時
8	Custom 4	常時

使用中のエンコーダーモードのパッドは、明るいピンク色に点灯します。利用可能なその他のモードは、薄いピンク色に点灯します。利用できないモード (DAW が実行中でない場合など) のパッドは点灯しません。

エンコーダーモードを選択すると、選択したモード名がディスプレイに一時的に表示されます。

A black rectangular display showing the text "Encoder Mode" on the top line and "Custom 1" on the bottom line in a white, monospaced font.

Encoder Mode
Custom 1

カスタムモードを選択すると、Novation Components で設定した名称がカスタムモード名として表示されます。詳細は、[Novation Components とは ? \[7\]](#)をご参照ください。

エンコーダー・カスタムモードを使用する

Launchkey は 4 つのカスタムモードを備え、任意の MIDI メッセージをエンコーダーで送信できます。各エンコーダーが送信する MIDI メッセージは、[Novation Components](#) で設定可能です。

カスタムモードでエンコーダーを回すと、送信中のパラメーター名と値がディスプレイに表示されます。パラメーター名は Components で設定できます。パラメーター名が未設定の場合は、MIDI メッセージの送信先 (例 : CC22) がディスプレイに表示されます。



エンコーダーのカスタムモード名 (デフォルト)



カスタム名が付けられたエンコーダー。

各カスタムモードでは、2 つのページを切り替えることができます。ページを切り替えるには、エンコーダーの右側にあるバンク切り替え (\wedge / \vee) ボタンを押します。



デフォルトのページは 1 です。ページ 1 では、次ページへのバンク選択ボタンのみが点灯し、ボタンを押すことでページ 2 が選択できることを示します。ページ 2 では前ページへのバンク選択ボタンのみが点灯し、ページ 1 に移動できることを示します。

エンコーダーページを切り替えると、現在のページがディスプレイに一時的に表示されます。



パッドモード

Launchkey のパッドは、8 つのパッドモードを備えます。パッドモードを変更するには、Shift ボタンを押しながらパッド 9~16 を押します。

一部のモードは、DAW 使用中にのみ利用できます。詳細は、お使いの DAW に関する章をご参照ください。

デフォルトのモードはドラムモードです。以下のパッドモードを利用可能です。

ドラムパッド番号	モード	利用可否
9	DAW (一般的な DAW コントロール [48]参照)	DAW モードのみ
10	Drum [54] [54]	常時
11	User Chord [29] [29]	常時
12	Chord Map	常時
13	Custom 1 [31] [31]	常時
14	Custom 2 [31] [31]	常時
15	Custom 3 [31] [31]	常時
16	Custom 4 [31] [31]	常時

最後に選択したモードのパッドが明るい青色に点灯します。利用可能なその他のモードは、薄い青色に点灯します。利用できないモードは点灯しません。

パッドモードを選択すると、対応するコントロール名とモード名がディスプレイに一時的に表示されます。



DAW パッドモード。



カスタム名が付けられたカスタムパッド・モード。

カスタムモードを選択すると、Novation Components で作成した名称がカスタムモード名として表示されます。詳細は、[Components](#) をご参照ください。[7] [7]

ドラムパッドモード

ドラムパッドモードを選択すると、パッドが MIDI ノートをトリガーします。デフォルトでは、パッド上のノートは C1~D#2 (左下から右上に向かって) に配置され、MIDI チャンネル 10 に設定されています。



ドラムモードでは、DAW のコントロール中はパッドがトラックの色に点灯します。DAW のコントロールが行われていない場合、パッドは薄い青色に点灯します。

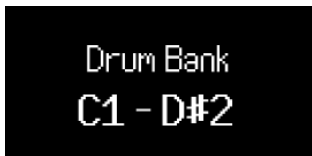


ドラムパッドのトランスポーズ

パッド左側の上下ボタンを使用することで、パッドがトリガーするノートを変更できます。上下ボタンを押す度に ± 8 セミトーン (± 8 半音) のノートを移動できます。たとえば、デフォルトの位置で上ボタンを押すと、左下のパッドが G#1、右上のパッドが B2 に変更されます。

パッドのノートをデフォルトの位置にリセットするには、上下ボタンを同時に押します。

ドラムパッドのノートを変更すると、新しいドラムパッドのノート範囲がディスプレイに一時的に表示されます。



Drum Bank
C1 - D#2

デフォルトの開始点が C1 であるため、一部のパッドがノート範囲外となる場合があります。ノート範囲外のドラムパッドは消灯し、MIDI 信号を出力しなくなります。

コードマップ・パッドモード

コードマップ・モードでは、Launchkey のパッドおよびエンコーダーで選択したスケール内のコードを演奏できます。コードマップの特徴は以下となります。

コードマップにアクセスするには、Shift ボタンを押したままパッド 12 (Chord Map) を押します。

- 左端の 8 つのパッドは「コードパッド」となり、各パッドにコードが割り当てられ、パッドを押すことで選択したスケール内のコードを演奏できます。一度にアクセスできる 8 つのコードがバンクとして扱われ、合計 40 のコードバンクで構成されるコードマップからコードを選択できます。
- 右端の 6 つのパッドは「パフォーマンス・パッド」となり、コードパッドとは別の方法でコードを演奏できます (アルペジオやインバージョン)。パフォーマンス・パッドを押しながら青色のコードパッドを押すと、コードにパフォーマンス効果を適用できます (同じコードパッドを何度か押すことで、すべての効果を確認できます)。
- エンコーダーを回すと、Adventure、Explore、Spread、Roll のパラメーターでコードを変更できます。Adventure と Explore パラメーターを変更すると、8 つのコードで構成される 40 のバンクにアクセスできます。Spread と Roll パラメーターを変更すると、コードの響きが変化します。



注記

コードモードの MIDI チャンネルが、使用中の MIDI チャンネルと異なる場合があります。コードモードのデフォルト MIDI チャンネルは「3」です。MIDI チャンネルを変更するには、Settings ボタンを押し、「Chords Channel」が表示されるまでパッド左側のアップ「^」/ダウン「v」ボタンを押した後、パッドまたはエンコーダー 1 でチャンネルを設定します。

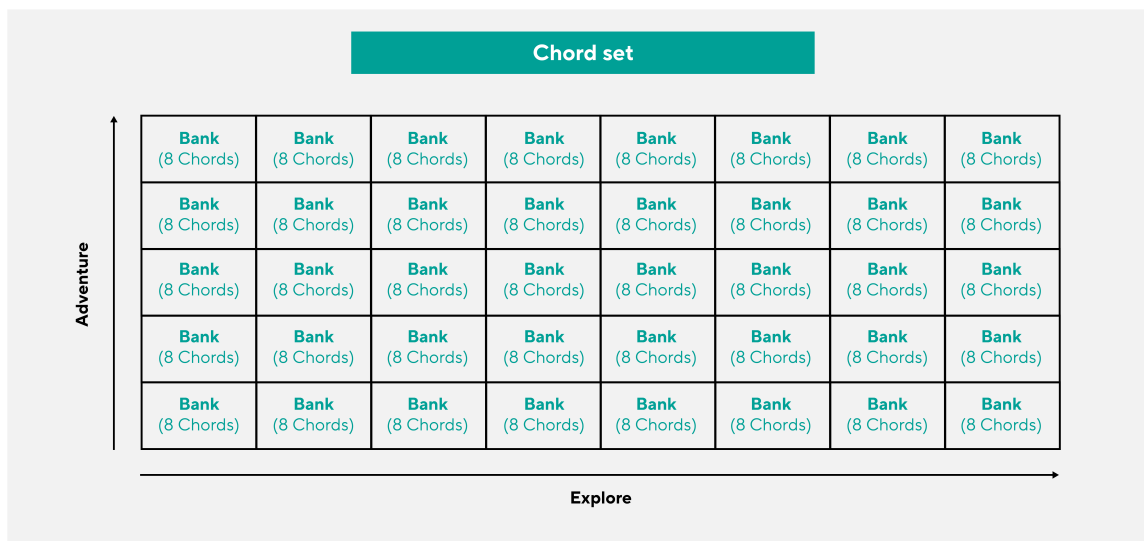
コードマップセット

コードマップでは、スケールモードで選択したキーおよびスケール内のコードセットを利用できます。

コードを演奏すると、コード名と発音中のノートがディスプレイに表示されます。

コードセット、および対応するスケールは、以下の表の通りです。

コードセット	スケール
Major (メジャー)	Major (メジャー) Major Pentatonic (メジャー・ペンタトニック) Whole Tone (ホールトーン)
Minor (マイナー)	Minor (マイナー) Minor Pentatonic (マイナーペンタトニック) Blues (ブルース) Melodic Minor (メロディック・マイナー) Hirajoshi (平調子) Kumoi (雲井) Hungarian Minor (ハンガリアンマイナー)
Dorian (ドリアン)	Dorian (ドリアン) Dorian #4 (ドリアン #4)
Mixolydian (ミクソリディアン)	Mixolydian (ミクソリディアン)
Lydian (リディアン)	Lydian (リディアン) Lydian Augmented (リディアン・オーギュメント) Lydian Dominant (リディアン・ドミナント)
Phrygian (フリジアン)	Phrygian (フリジアン) In Sen (陰線) Iwato (岩戸) Pelog-Selisir (ペロッグ・スリシル) Half Whole Diminished (ハーフホール・ディミニッシュト)
Locrian (ロクリアン)	Locrian (ロクリアン) Super Locrian (スーパーロクリアン)
Harmonic Minor (ハーモニック・マイナー)	Harmonic Minor (ハーモニック・マイナー) Bhairav (バイラブ) Whole Half Diminished (ホール・ハーフ・ディミニッシュト)
Harmonic Major (ハーモニック・メジャー)	Harmonic Major (ハーモニック・メジャー)
Phrygian Dominant (フリジアン・ドミナント)	Phrygian Dominant (フリジアン・ドミナント) Pelog-Tembung (ペロッグ・トゥンブン) 8-tone Spanish (8 トーン・スパニッシュ)



各コードセットは、最大 40 のコードバンクで構成されています。各コードバンクには Explore と Adventure のパラメーターがあり、それぞれの値を変更するにつれコードバンクが切り替わり、結果として様々な響きのコードにアクセスできます。

コードマップ・パフォーマンス・パッド

右端の 6 つのパッド (パッド 6~8 および 14~16) は、コードマップ・パフォーマンスパッドとして機能します。これらのパフォーマンスパッドを押さえながらコードパッドを押すことで、様々な方法でコードが再生されます。



パフォーマンス・パッドを使用するには、右側のパフォーマンス・パッドを押しながら (上図の例では「スプリット：左+右」が押されています)、またはラッチを有効にした状態でコードパッドを押すと、パフォーマンス・パッドの機能に応じてコードが発音されます。

パフォーマンス・パッドを使うと、次の通りにコードが変化します。詳細は、各項の解説をご参照ください。

パッド	動作
6	マニュアル・アルペジオ・アップ-コードパッドを押すと、コードの構成音が順に再生されます。[25][25]
7	インバージョン・アップ-パッドを押す度にコードの異なるインバージョンが再生されます。[27][27]
8	スプリット：ベース+コード-コードパッドを2回押すと、ベースノートとその他の構成音が続けて再生されます。[28][28]
14	マニュアル・アルペジオ・ダウン-コードパッドを押すと、コードの構成音が順に再生されます。[25][25]
15	インバージョン・ダウン-コードの最初のインバージョンが再生されます。[27][27]
16	スプリット：左+右-コードパッドを2回押すと、右手と左手のバージョンが続けて再生されます。[28][28]



注記

パフォーマンス・パッドは、一度に1つのみ使用できます。

パフォーマンス・パッドは、以下の手順でラッチできます。ラッチすることで、パフォーマンス・パッドを長押しせずに使用できます。

1. シーンローンチ・ボタン>を押すと、ラッチ機能が有効になります。
2. ラッチしたいパフォーマンス・パッドをタップします。

ラッチ機能を有効にすると、シーンローンチ・ボタン>が白色に点灯します。パフォーマンス・パッドは押す度にオンとオフが切り替わるようになります。

ラッチ機能を無効にすると、アクティブなパフォーマンス/修飾パッドが無効になります。

コードマップ・ マニュアル・ アルペジオ

マニュアル・ アルペジオのパフォーマンス・ モード (マニュアル・ アルペジオ・ アップ、マニュアル・ アルペジオ・ ダウンの2つのモード) では、コードパッドを押してもコードは再生されず、コードの構成音がパッドを押す度に1音ずつ再生されます。たとえば、3音のコード (トライアド) の場合、コードパッドを3回押すことですべての構成音が再生されます。

コードを変更したり、パフォーマンスパッドを離すと、アルペジオの再生パターンがリセットされます。

マニュアル・ アルペジオ・ アップ

マニュアル・ アルペジオ・ アップ・ モードでは、コードの構成音が低いノートから高いノートの順に再生され、それを繰り返します。

構成音がC、E、GのCメジャーコードの場合、マニュアル・ アルペジオ・ アップは、ノートをC、E、G、C、E、G... と繰り返し再生します。



マニュアル・アルペジオ・ダウン

マニュアル・アルペジオ・ダウン・モードでは、コードの構成音が高いノートから低いノートの順に再生され、それを繰り返します。

構成音が C、E、G の C メジャーコードの場合、マニュアル・アルペジオ・ダウンは、ノートを G、E、C、G、E、C... と繰り返し再生します。



コードマップ・インバージョン

インバージョン・パフォーマンス・パッドを使用すると、コードパッドを押す度に異なるインバージョン(転回形)が再生されます。インバージョンとは、ルート音(コード名のノート、C等)がベースノート(最も低い音)でないコードの奏法です。

インバージョン・パフォーマンス・パッドを押しながらコードパッドを押す度に、コードの構成音のピッチが最も低いノートからオクターブ単位で上(インバージョン・アップ)または下に(インバージョン・ダウン)順に移動します。すべてのノートのオクターブが変更されると(コードパッドを4回押すと)、コードは元の状態に復帰します。

別のコードパッドを押したり、パフォーマンス・パッドを離すと、インバージョンのサイクルがリセットされます。

インバージョン・アップ

Cメジャートライアド(C/E/G)でのインバージョン・アップ・モードの動作は以下の通りです。

動作	コードの構成音
パフォーマンス・パッドを押さずにコードパッドを押した場合	C3、E3、G3
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを1回タップ	C4、E3、G3(第一転回形)
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを2回タップ	C4、E4、G3(第二転回形)
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを3回タップ	C4、E3、G4(1オクターブ上に移動)
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを4回タップ	C3、E3、G3(元のコードに復帰)

インバージョン・ダウン

Cメジャートライアド(C/E/G)でのインバージョン・ダウン・モードの動作は以下の通りです。

動作	コードの構成音
パフォーマンス・パッドを押さずにコードパッドを押した場合	C3、E3、G3
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを1回タップ	C3、E3、G2(第二転回形)
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを2回タップ	C3、E3、G2(第一転回形)
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを3回タップ	C2、E2、G2(1オクターブ下に移動)
インバージョン・パッドを押しながらコードパッドを4回タップ	C3、E3、G3(元のコードに復帰)

コードマップ・ スプリットモード

スプリットモードは、左右の手による鍵盤の演奏を再現します。

- ・「スプリット：ベース+コード」パッドを押しながらコードパッドを1回タップすると、ベースノートが再生されます。2回タップすると、残りの構成音が再生されます。
- ・「スプリット：左+右」パッドを押しながらコードパッドを1回タップすると、コード内の低いノート2音が再生されます。2回タップすると、残りの構成音が再生されます。

その他のモードと同様、コードを変更する、もしくはパフォーマンス・パッドを離すと、サイクルがリセットされます。

いずれのモードでも、最初のタップではコード構成音が同時和音として一度に再生され、2回目のタップでは構成音が素早くアルペジオで再生されます。

ユーザーコード

ユーザーコード・モードを使うと、独自のコードを設定できます。

ユーザーコードを有効にするには、Shift ボタンを押しながらドラムパッド 11 を押します。

ユーザーコード・モードを有効にすると、コードが割り当てられたパッドが点灯します。下図の例では、5つのパッドにユーザーコードが割り当てられています。

青色のパッドを押すと、コードが発音されます。コード演奏中はパッドが白く点灯します。



注記

コードモードの MIDI チャンネルが、使用中の MIDI チャンネルと異なる場合があります。コードモードのデフォルト MIDI チャンネルは「3」です。MIDI チャンネルを変更するには、Settings ボタンを押し、「Chords Channel」が表示されるまでパッド左側のアップ「^」/ダウン「v」ボタンを押した後、パッドまたはエンコーダー 1 でチャンネルを設定します。

ユーザーコード・バンクを変更する

パッドにユーザーコードを割り当てるには：

1. 点灯していない空白のパッドを長押しします。ディスプレイに鍵盤のイラストが表示されます。



2. ユーザーコードに記録したいノートを鍵盤で演奏します。コードを一度に弾くことも、1音ずつ鍵盤を押すこともできます（これにより、1本の手で演奏できないコードも登録できます）。最大6音のノートを記録可能です。7音目以上のノートは無視されます。コードに記録したノートとコード名がディスプレイに表示されます。



3. パッドを離します。
パッドが現在のユーザーコード・バンクの色に点灯します。詳細は「[ユーザーコード・バンクを変更する](#)」をご参照ください。

ユーザーコードのトランスポーズ

ユーザーコード・モードでは、パッド左側にあるアップ「∧」/ダウン「∨」ボタンでユーザーコード・バンク全体のキーをトランスポーズできます。

アップ「∧」/ダウン「∨」ボタンを押すと、トランスポーズが半音単位で実行されます。最大12セミトーン（1オクターブ）上下にトランスポーズ可能です。

Shift ボタンを押しながらアップ「∧」/ダウン「∨」ボタンを押すと、オクターブ（12セミトーン）単位のトランスポーズが可能です。これにより最大±3オクターブのトランスポーズが行えます。

ユーザーコードを削除する

割り当て済みのユーザーコードを削除するには、Function ボタンを押しながら削除したいコードパッドを押します。

Function ボタンを押している間、コードパッドが赤色に点灯し、ディスプレイに「Delete Chord!」と表示されます。



パッド・カスタムモード

Launchkey は 4 つのカスタムモードを備え、任意の MIDI メッセージをエンコーダーで送信できます。各エンコーダーが送信する MIDI メッセージは、[Novation Components](#) で設定可能です。

カスタムモードを有効にすると、Components で設定したカスタムメッセージがパッドから出力されます。

カスタムモードでパッドをタップすると、現在のパラメーター名と値がディスプレイに表示されます。パラメーター名は Components で設定できます。パラメーター名が未設定の場合は、MIDI メッセージの送信先 (例: CC21) がディスプレイに表示されます。

スケールモードを使用する

スケールモードは、選択したスケールで簡単に演奏ができる機能です。

Scale ボタンを押すと、スケールモードが有効になります。スケールモードを有効にすると、選択中のスケールがディスプレイに表示されます。



スケールを変更する

スケールの変更は、左側の3つのエンコーダーで行います。

1. エンコーダー1は、スケールのルート音を設定します。デフォルトのノートはCです。
2. エンコーダー2は、スケールを変更します。デフォルトのスケールはメジャースケールです。
3. エンコーダー3は、スケールモードを変更します。以下の3つのスケールモードを選択可能です。
 - [Snap to Scale \(スナップ・トゥ・スケール\)](#) #UUID-76ce90c5-c808-c1d2-80b1-bc704031b2e1 [33] [33]
 - [Filter out of Scale \(フィルター・アウトオブ・スケール\)](#) #UUID-98af2500-e979-4789-76a8-c808e7435692 [33] [33]
 - [Easy Scale \(イージースケール\)](#) #UUID-2df7f604-670e-58bc-3798-418bef2f0941 [33] [33]

デフォルトモードは、Snap to Scale です。



ヒント

Shift ボタンを押しながらエンコーダーを回すと、値を変更せずにパラメーターがディスプレイに表示されます。

スケール

スケールモードでは、以下のスケールを選択できます (エンコーダー 2 で選択)。

スケール	
Major (メジャー)	Dorian #4 (ドリアン#4)
Minor (マイナー)	Phrygian Dominant (フリジアン・ドミナント)
Dorian (ドリアン)	Melodic Minor (メロディックマイナー)
Mixolydian (ミクソリディアン)	Lydian Augmented (リディアン・オーギュメント)
Lydian (リディアン)	Lydian Dominant (リディアン・ドミナント)
Phrygian (フリジアン)	Super Locrian (スーパーロクリアン)
Locrian (ロクリアン)	8-tone Spanish8 (トーン・スパニッシュ)
Whole Tone (ホールトーン)	Bhairav (バイラブ)
Half Whole Dim (ハーフ・ホール・デミニッシュト)	Hungarian Minor (ハンガリアンマイナー)
Whole Half Diminished (ホール・ハーフ・デミニッシュト)	Hirajoshi (平調子)
Blues (ブルース)	In-Sen (陰旋)
Minor Pentatonic (マイナーペンタトニック)	Iwato (岩戸)
Major Pentatonic (メジャー・ペンタトニック)	Kumoi (雲井)
Harmonic Minor (ハーモニックマイナー)	Pelog-Selisir (ペログ・スリシル)
Harmonic Major (ハーモニック・メジャー)	Pelog-Tembung (ペログ・トゥンブン)

Snap to Scale (スナップ・トゥ・スケール)

Snap to Scale モードでは、Launchkey で演奏されたノートが選択中のスケールに含まれない場合、スケールの構成音に最も近いノートが強制的に発音されます。

Filter out of Scale (スケールフィルター)

Filter out of Scale モードでは、選択中のスケールに含まれないノートは無視されます。つまり演奏されたノートがスケールの構成音でない場合、Launchkey はそのノートを発音しません。

Easy Scale (イージースケール)

Easy Scale モードでは、選択中のスケールに含まれるすべてのノートが Launchkey の白鍵にマッピングされます。



ヒント

7音未満のスケールを選択した場合は、鍵盤上のオクターブと一致しくなくなります。そのため、このモードでは白鍵を上下に演奏(グリッサンド)することで、ハーブの様な奏法が可能です。

コードモードを使用する

Launchkey に搭載される 3 種類のコードモードを使用すると、より簡単にアイデアを形にしたり、クオリティの高い作品作りが可能になります。以下のコードモードを利用可能です。

- コードマップ - スケールを選択しエンコーダーとパフォーマンスパッドで好みのコードバンクを選択し、ドラムパッドで演奏します。
- ユーザーコード - 制作中の楽曲で使用する主なコードを定義し、ドラムパッドに自由に割り当てます。
- 固定コード - 鍵盤でコードを設定し、1 つの鍵盤でコードを演奏します。



注記

コードモードの MIDI チャンネルが、使用中の MIDI チャンネルと異なる場合があります。コードモードのデフォルト MIDI チャンネルは「3」です。MIDI チャンネルを変更するには、Settings ボタンを押し、「Chords Channel」が表示されるまでパッド左側のアップ「^」/ダウン「v」ボタンを押した後、パッドまたはエンコーダー 1 でチャンネルを設定します。

ユーザーコード・モード

ユーザーコード・モードを使うと、独自のコードを設定できます。

ユーザーコードを有効にするには、Shift ボタンを押しながらドラムパッド 11 を押します。

ユーザーコード・モードを有効にすると、コードが割り当てられたパッドが点灯します。下図の例では、5つのパッドにユーザーコードが割り当てられています。



青色のパッドを押すと、コードが発音されます。コード演奏中はパッドが白く点灯します。

ユーザーコード・バンクを変更する

パッドにユーザーコードを割り当てるには：

1. 点灯していない空白のパッドを長押しします。ディスプレイに鍵盤のイラストが表示されます。



2. ユーザーコードに記録したいノートを鍵盤で演奏します。コードを一度に弾くことも、1音ずつ鍵盤を押すこともできます（これにより、1本の手で演奏できないコードも登録できます）。最大6音のノートを記録可能です。7音目以上のノートは無視されます。コードに記録したノートとコード名がディスプレイに表示されます。



3. パッドを離します。
パッドが現在のユーザーコード・バンクの色に点灯します。詳細は「[ユーザーコード・バンクを変更する](#)」をご参照ください。

ユーザーコードのトランスポーズ

ユーザーコード・モードでは、パッド左側にあるアップ「∧」/ダウン「∨」ボタンでユーザーコード・バンク全体のキーをトランスポーズできます。

アップ「∧」/ダウン「∨」ボタンを押すと、トランスポーズが半音単位で実行されます。最大12セミトーン（1オクターブ）上下にトランスポーズ可能です。

Shift ボタンを押しながらアップ「∧」/ダウン「∨」ボタンを押すと、オクターブ（12セミトーン）単位のトランスポーズが可能です。これにより最大±3オクターブのトランスポーズが行えます。

ユーザーコードを削除する

割り当て済みのユーザーコードを削除するには、Function ボタンを押しながら削除したいコードパッドを押します。

Function ボタンを押している間、コードパッドが赤色に点灯し、ディスプレイに「Delete Chord!」と表示されます。



固定コードモード

固定コードモードを使用すると、コードを鍵盤に割り当てることができます。最大6つのノートを構成音として登録でき、登録したコードは鍵盤上で上下にトランスポーズさせることができます。

固定コードを割り当てるには

1. Shift ボタンと Scale ボタンを長押しします。
2. 固定コードに登録したいノートを鍵盤で演奏します。コードを一度に弾くことも、1音ずつ鍵盤を押すこともできます(これにより、1本の手で演奏できないコードも記録できます)。コードを登録すると、コード名とノートがディスプレイに表示されます。
3. Shift ボタンと Scale ボタンを離します。

固定コードにノートと音程が登録され、固定コードモードが有効になります。固定コードモードのオン/オフを確認するには、Shift ボタンと Scale (Fixed Chord) ボタンを長押しします。

Fixed Chord ボタンを押すと、固定コードモードのオン/オフを切り替えることができます。固定コードモードを有効にすると、最後に保存されたコードが読み込まれます。固定コードを登録し直すには、上記の手順を繰り返します。コードを登録し直すと、前回登録したコードは削除されます。

固定コードを削除する

1. Shift ボタンと Scale ボタンを長押しします。
2. いずれかの鍵盤を押します。
3. Shift ボタンと Scale ボタンを離します。

アルペジエーター (Arp) を使用する

アルペジエーター (Arp) で複数のノート (コード等) を同時に押さえると、Launchkey は各ノートを 1 音ずつ順番に発音します。

Launchkey のアルペジエーターを有効にするには、Arp ボタンを押します。Arp ボタンが点灯し、アルペジエーターのコントロールがエンコーダーに割り当てられた順序でディスプレイに表示されます。

1. BPM (テンポ) #UUID-e17b21a1-364e-ba38-0399-c91fa8f1eed6 [39] [39]
2. Swing (スウィング) #UUID-1a2ac74a-9393-9cdd-97a8-5318bba5487c [40] [40]
3. Rate (レート) #UUID-413a34b2-3abe-dc6b-1b71-d74cd0ff828b [40] [40]
4. Gate (ゲート) #UUID-8fc9dc5e-7e12-2146-3303-9b8ad5ecb3d0 [41] [41]
5. Type (タイプ) #UUID-556ec877-3ad5-d1e9-f1ac-0f8d54b37abb [41] [41]
6. Oct (オクターブ) #UUID-1a457285-c83f-c0bd-1e52-3fb2b8d082c0 [41] [41]
7. Mut (ミューテート) #UUID-8a0f6b94-6c63-b40e-6e33-8f47837bc13d [41] [41]
8. Rytm (リズム) #UUID-ee30c975-2721-5884-be0b-5a7c752f0157 [42] [42]

```
Arp
BPM Swing Rate Gate
Type Oct Mut Rytm
```



ヒント

Shift ボタンを押しながら Arp ボタンを押すと、アルペジエーターをラッチできます。アルペジオ再生中に鍵盤で同時に押さえたすべてのノートが、アルペジオの構成音として再生し続けます。再び鍵盤を押さえると、アルペジエーターは新しいノートのセットを構成音として上書きしアルペジオを再生します。

アルペジオラッチを使用すると鍵盤を押さえたままにする必要がないため、アルペジエーターの音作りを行う際に大変便利です。

アルペジオ・コントロール

アルペジエーター・モードでは、Launchkey の各エンコーダーでアルペジエーターをコントロールできます。エンコーダーを回すと、変更中のパラメーターと値が Launchkey のディスプレイに一時的に表示されます。



Tempo
160bpm



ヒント

Shift ボタンを押しながらエンコーダーを回すと、値を変更せずにパラメーターがディスプレイに表示されます。

各エンコーダーで変更できるパラメーターは以下の通りです。

エンコーダー	パラメータ	デフォルト値
1	BPM (テンポ)	120
2	Swing (スウィング)	0
3	Rate (レート)	1/16
4	Gate (ゲート)	50%
5	Type (タイプ)	Up
6	Oct (オクターブ)	1
7	Mut (ミューテート)	0%
8	Dev (デヴィエイト)	0

アルペジオ・テンポ

Launchkey が MIDI クロックを受信していない場合、アルペジエーターの速さを BPM 単位で設定します。

エンコーダー 1 を回すことで、アルペジオのテンポを 40~240 BPM の範囲で変更できます。デフォルトのテンポは 120 BPM です。

Launchkey が MIDI クロックを受信している場合、エンコーダー 1 を回すとディスプレイにテンポが外部 MIDI クロックに同期中であることが表示されます。

アルペジオスウィング

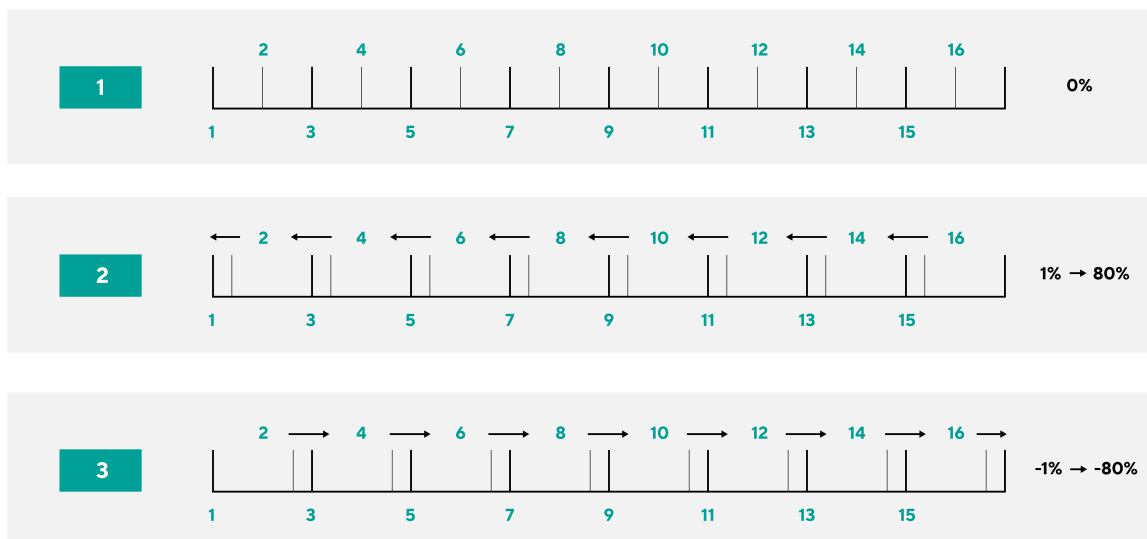
デフォルトでは、アルペジエーターのパターンの各ノートは等間隔で発音します。デフォルトのテンポ (BPM120) およびレート (16 分音符) の場合、各パターンは 2 秒毎に繰り返し、ステップ間隔は 1/8 秒となります。

アルペジエーターのスウィング (Swing) パラメーターをデフォルト値の 0% から変更することで、等間隔のステップのタイミングを変更 (オフビート) することができます。

エンコーダー 2 を回すと、-79% ~ +79% の範囲でスウィングを変更できます。

スウィング値をマイナスにすると、偶数ステップが直前の奇数ステップに対して前に移動し、偶数ステップの発音タイミングが速くなります。スウィング値をプラスにすると、偶数ステップが直前の奇数ステップに対して後ろに移動し、偶数ステップの発音タイミングが遅くなります。

以下の図は、スウィング設定での挙動を大まかに示しています。



アルペジオ・レート

エンコーダー 3 を回すことで、アルペジオのレート (Rate)、つまりアルペジオの速度を変更できます (単位は音価)。エンコーダーを調整することで、1 小節間に発音されるノートの頻度を設定できます。

以下のレートを選択可能です。

- 1/4
- 1/4 三連符
- 1/8
- 1/8 三連符
- 1/16
- 1/16 三連符
- 1/32

- 1/32 三連符

アルペジオ・ゲート

エンコーダー 4 は、アルペジオの各ノートの長さを設定します。0%~95%の範囲で設定可能です。



ヒント

ゲートはより長く設定することが可能です。詳細は、<0/>アルペジオ・タイ<0/>の章をご参照ください。アルペジオ

アルペジオ・タイプ

エンコーダー 5 は、アルペジオのタイプを選択します。鍵盤で押さえられたノートやコードをどのように発音するかを設定します。

アルペジオ・タイプ	動作
Up	各ノートを下から上の順番に再生します。
Down	各ノートを上から下の順番に再生します。
Up/Down	各ノートを下から上の順番に再生して、上から下の順番に下降します。 両端のノート（最も高い音と最も低い音）は繰り返され ません 。
Up/Down 2	上昇と下降が切り替わる際、両端のノート（最も高い音と最も低い音）が繰り返し再生されます。
As Played	ノートを押さえた順番に再生します。
Random	押さえているノートをランダムに再生します。
Chord	すべてのノートをコードとして各ステップで再生します。
Strum	モジュレーション・ホイールを動かすとノートが発音されます。鍵盤を押さえたままモジュレーション・ホイールを上下に動かすことで、発音されるノートをコントロールできます。ギターのストラム奏法を再現する機能です。

アルペジオ・オクターブ

エンコーダー 6 は、アルペジエーターがノートを再生するオクターブ数を調整します。1~4 オクターブの範囲で設定可能です。

アルペジオ・ミューテート

エンコーダー 7 は、アルペジエーターに適用されるミューテート（変化）の割合を調整します。ミューテートは、すべてのアルペジオ・タイプで利用できます。

エンコーダー 7 は、アルペジオにバリエーションを加えます。エンコーダーを回す、もしくは鍵盤を弾き直すことでアルペジオに新たな変化（ミューテート）が生じます。エンコーダーの操作を止めると、ノートの変化が止まり、その時点のパターンが繰り返されます。

アルペジオリズム

エンコーダー 8 を回すと、アルペジオのリズムが変更され、ディスプレイに現在のステップが表示されます。

エンコーダーを回す度にリズムのバリエーションが変化し、異なる休符のパターンが生成されます。

アルペジオ・パターン・モード

アルペジオ・パターン・モードでは、アルペジエーターをパッドでコントロールできます。この機能を使うことで、よりインタラクティブにアルペジオを編集できます。

アルペジオ・パターン・モードにアクセスするには、Arp ボタンを押します。

アルペジオ・パターン・モードを選択すると、「Pad Mode Arp Pattern」がディスプレイに一時的に表示されます。



Pad Mode
Arp Pattern

アルペジオ・パターン・モード

- ・ アクティブなステップが青色に点灯し、非アクティブなステップは消灯します。アルペジエーターは点灯するステップのみを再生します。アルペジオ再生中は、パッド上段に現在のステップ位置が点灯します。



- ・ 上段のドラムパッドでアルペジオのステップを無効にできます。パッドを押すことでアルペジオのシーケンスからステップが削除（休符が有効化）されます。



- ・ 下段のパッドでは、アルペジオ・ パターンの各ステップに対し追加のコントロールが行えます。

これらの手順は、アルペジオ・ リズムでも同様です。アルペジオ・ リズム・ モードはグリッドに反映されます。アルペジオ・ リズムの値を変更するとグリッドに表示されるパターンが変化し、変更を加えると上書きされます。

アルペジオ・ タイ

アルペジオ・ タイ (Arp Tie) を有効にすると、Function ボタンとアルペジオ・ タイが設定されたステップが赤色に点灯します。

アルペジオ・ タイは、アルペジオ・ パターン内の 2 つのノートを結びます。アルペジオ・ タイ・ モードで下段のパッドを押すと、パッドが赤色に点灯し、対応するステップが次のステップに結ばれます。

アルペジオ・ タイをステップに設定すると、アルペジオゲートが 110%に増加します。



アルペジオ・ アクセント

アルペジオ・ アクセント (Arp Accent) を有効にすると Function ボタンがオレンジ色に点灯し、アクセントが設定されたすべてのステップがオレンジ色に薄く点灯します。

ステップにアクセントを追加すると、アルペジオのステップのベロシティが通常時に比べ+30%増加します。

アクセント・ ベロシティの上限値は 127 です。



注記

アクセントとラチェットの両方がステップに設定されている場合、アクセント効果はいずれのノートにも適用されます。 [45] [45]



アルペジオ・ラチェット

アルペジオ・ラチェット (Arp Ratchet) を有効にすると、Function ボタンとアルペジオ・ラチェットを設定したすべてのステップが黄色に薄く点灯します。

アルペジオ・ラチェットをステップに設定すると、そのステップで2つのトリガーが実行されます。たとえば 1/16 拍子のアルペジオの場合、ラチェットが設定されたステップでは 1/32 拍子のノートが2回再生されます。発音されるノートの音高は変わりません。



Launchkey Mini 37 の設定

設定メニューにアクセスするには、Settings ボタンを押します。設定メニュー有効時は、Settings ボタンが明るく点灯します。

設定メニューのアクセス中は、ディスプレイ、パッド、エンコーダーが設定メニューを操作するための動作に切り替わります。設定メニューは以下の操作でナビゲートできます。

- アップ「^」 / ダウン「v」ボタンで設定画面を移動します。
- エンコーダー 1 またはパッドで現在の設定値を変更します。



設定項目と現在の値がディスプレイに表示されます。



Settings ボタンをもう一度押すと設定メニューが終了し、パッドモードとエンコーダーモードが最後の状態に復帰します。

以下の項目を設定可能です。

項目	値の範囲	説明	デフォルト値
MIDI Channel Keys	1-16	鍵盤が送信する MIDI チャンネルを設定します。	1
Chords Channel	1-16	コードモードの MIDI チャンネルを設定します。	3
Drums Channel	1-16	ドラムモードの MIDI チャンネルを設定します。	10
Vel Curve (Keys)	Soft Normal Hard Fixed	鍵盤のベロシティカーブを設定します。	Normal
Vel Curve (Pads)	Soft Normal Hard Fixed	パッドのベロシティカーブを設定します。	Normal
Fixed Velocity	1-127	アルペジオ・ゲートの固定ベロシティとアクセント値を変更します。	120
Arp Velocity	On/Off	オンにすると、キーボードでアルペジオのベロシティを調整できます。オフの場合、ベロシティはデフォルト値の 100 となります。	On
Arp Note Source	Part A Part B	どちらのパートがアルペジエーターをトリガーするかを設定します。	Part A
Pad Aftertouch	Off Channel Poly	パッドでアフタータッチを送信するかどうか、また送信する場合はアフタータッチのタイプを設定します。	Polyphonic
Pad AT Threshold	Low Normal High	パッドのアフタータッチの開始点 (閾値) を設定します。	Normal
MIDI Clock Out	On/Off	Launchkey が MIDI クロックを送信するかどうかを設定します。	On
LED Brightness	1-10	LED の輝度を設定します。	8
Screen Brightness	1-10	ディスプレイの輝度を設定します。	8
Display Timeout	1-10	一時的なメッセージが表示される時間を 1 秒単位で設定します。	5
External Feedback	On/Off	ドラム/カスタムモード時、受信した MIDI メッセージに応じて対応するパッドが点灯します。	On
Vegas Mode	On/Off	Vegas モードのオン/オフを切り替えます。	Off
Power On Modes	エンコーダーモード : Custom 1 ~ 4 パッドモード : Drum ~ Custom 4		フェーダー : Custom 1 エンコーダー : Custom 1 パッド : Drum

Launchkey Mini 37 による DAW のコントロール

Launchkey の様々なエンコーダーモードやパッドモードを使用して、数多くの DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) をコントロールできます。

エンコーダーモードを使用すると、プラグインや DAW のミキサー、センド、トランスポート機能を Launchkey のエンコーダーでコントロールできます。

またパッドモードを使用することで、Launchkey のパッドを DAW で使用できます。

Launchkey が提供する DAW コントロール機能の多くは各 DAW 固有の機能ですが、すべての DAW で共通の機能も存在します。そのため、DAW コントロール機能は 2 つのセクションに分類されています。

- すべての DAW に共通の機能
- 特定の DAW 専用の機能

共通の DAW コントロールの章および、お使いの DAW 専用の機能に関する章を良く読み、Launchkey をご自身のワークフローにどのように統合できるかをご確認ください。[48][48]

一般的な DAW コントロール

共通の DAW コントロールは、対応するすべての DAW で動作する Launchkey の機能です。

本章を読んだ後に、お使いの DAW に関するセクションをお読みください。

デフォルトの DAW コントロールモード

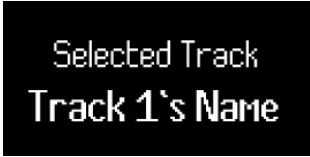
Launchkey を DAW に接続すると、Launchkey の各コントロールは初めに以下のデフォルトモードに切り替わります。

コントロールエリア	デフォルトモード
エンコーダー	Plugin
ドラムパッド	DAW
フェーダーボタン	Arm

トラックボタンおよびナビゲーション

トラックボタンは、すべての DAW で同様に機能します。Track> ボタンを押すと次のトラック、<Track ボタンを押すと前のトラックに移動します。

トラックを移動すると、Launchkey Mini 37 のディスプレイに移動したトラック名が一時的に表示されます。



Selected Track
Track 1's Name

Shift ボタンを長押しすると Track ボタンが点灯し、トラックの移動が行えることを示します。たとえばトラック 1 を選択中の場合、前のトラックには移動できないため <Track ボタンは点灯しません。

DAW エンコーダーモード

エンコーダーモードでは、Launchkey Mini 37 のエンコーダーに様々なコントロールを割り当てることができます。

エンコーダーモードを変更するには、Shift ボタンを押しながら上段のいずれかのパッドを押します。



DAW をコントロールするためのエンコーダーモードは以下の通りです。

- Plugin (プラグイン) - 現在フォーカスされているプラグインをコントロールします。
- Mixer (ミキサー) - トラックのレベルおよびパンを調整します。
- Sends (センド) - DAW ミキサーのセンドを調整します。
- Transport (トランスポート) - DAW の主要なトランスポート機能である、再生/一時停止

DAW エンコーダーモードに関する詳細は、以降の章をご参照ください。

プラグイン・エンコーダーモード

プラグインモードでは、DAW で現在フォーカスされているプラグインのパラメーターを Launchkey のエンコーダーでコントロールできます。DAW 内蔵エフェクトやインストゥルメント、サードパーティー・プラグインをコントロール可能です。

プラグイン・パラメーターをエンコーダーに割り当てる方法は DAW によって異なります。詳細はお使いの DAW に関する章をご参照ください。

トランスポート・エンコーダーモード

トランスポート・エンコーダー・モードを使うと、DAW のアレンジメント・ビューをエンコーダーで操作できます。これにより作業中のプロジェクトを自由にナビゲート可能になります。

このモードでは、各エンコーダーの機能が省略名でディスプレイに表示されます。

エンコーダー	機能	省略名
1	トランスポート・ポジション (スクラブ)	Scrb
2	Zoom	Zoom
3	ループの開始点 (Loop Start point)	LPS
4	ループの終了点 (Loop End point)	LPE
5	マーカー選択	Mark
6	なし	
7	なし	
8	テンポ (BPM)	BPM



注記

このモードは、Ableton Live の場合動作が若干異なります。詳細は、[Ableton Live のトランスポート・エンコーダーモード \[58\]](#)をご参照ください。

プレイバック・ポジション

トランスポート・エンコーダーモードでは、エンコーダー 1 で再生位置をコントロールできます (スクラブ機能)。エンコーダーを回すと、アレンジウインドウ上の再生ヘッドが拍単位で左右に移動します。

このときディスプレイには現在の再生ヘッドの位置が、小節と拍として表示されます。

Zoom

トランスポート・エンコーダーモードでは、エンコーダー 2 でズームレベルを増減します。

ズームエンコーダーを時計方向に回すとズームイン、反時計方向に回すとズームアウトします。

ディスプレイには最後に使用されたズーム値が表示されます。



Zoom
IN



Zoom
OUT

ループの開始点および終了点

トランスポート・エンコーダーモードでは、エンコーダー 3 とエンコーダー 4 で DAW 内のループの開始点と終了点を設定できます。

エンコーダーを時計方向または反時計方向に回すと、各ループポイントが拍単位で前後に移動します。

ループポイントを変更すると、変更中のループポイントが小節と拍単位でディスプレイに一時的に表示されます。

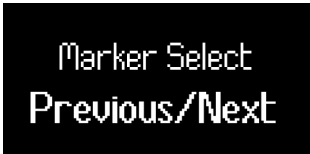
マーカー選択

トランスポート・エンコーダーモードでは、エンコーダー 5 で DAW の再生ヘッドを設定されたマーカー単位の移動ができます。

エンコーダーを時計方向または反時計方向に回すと、再生ヘッドが前または後のマーカーに移動します。

マーカーを移動すると、移動したマーカー名がディスプレイに一時的に表示されます。

アレンジメントにマーカーを挿入していない場合は、エンコーダーを回しても再生ヘッドは移動しません。この場合ディスプレイに「No Markers」と表示されます。

A black rectangular button with white text. The text is arranged in two lines: "Marker Select" on the top line and "Previous/Next" on the bottom line.

マーカーの追加方法は DAW によって異なります。お使いの DAW でマーカーを追加する方法は、各 DAW のユーザーガイドをご参照ください。

DAW およびドラムパッドモード

DAW コントロールには、DAW モードとドラムモードの 2 つのモードがあります。これらのモードを切り替えるには、Shift ボタンを押しながらドラムパッドのモードボタンを押します。

DAW モードでは、お使いの DAW に応じてパッドの機能が変化します。詳細は、本マニュアルのお使いの DAW に関する章をご参照ください。

ドラムモード

ドラムモードでのパッドの動作は、通常の [ドラムパッド・モード](#) と同様です。[54] [54]

ただし DAW でドラムモードを使用する場合、パッドが選択中のトラックの色に点灯します。これにより、現在操作中のトラックを視覚的に確認できます。

ドラムパッドモード

ドラムパッドモードを選択すると、パッドが MIDI ノートをトリガーします。デフォルトでは、パッド上のノートは C1~D#2 (左下から右上に向かって) に配置され、MIDI チャンネル 10 に設定されています。



ドラムモードでは、DAW のコントロール中はパッドがトラックの色に点灯します。DAW のコントロールが行われていない場合、パッドは薄い青色に点灯します。

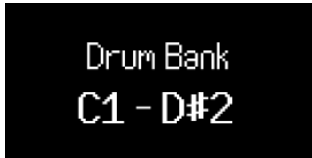


ドラムパッドのトランスポーズ

パッド左側の上下ボタンを使用することで、パッドがトリガーするノートを変更できます。上下ボタンを押す度に±8 セミトーン (±8 半音) のノートを移動できます。たとえば、デフォルトの位置で上ボタンを押すと、左下のパッドが G#1、右上のパッドが B2 に変更されます。

パッドのノートをデフォルトの位置にリセットするには、上下ボタンを同時に押します。

ドラムパッドのノートを変更すると、新しいドラムパッドのノート範囲がディスプレイに一時的に表示されます。



Drum Bank
C1 - D#2

デフォルトの開始点が C1 であるため、一部のパッドがノート範囲外となる場合があります。ノート範囲外のドラムパッドは消灯し、MIDI 信号を出力しなくなります。

トランスポートボタン

トランスポートボタンは、お使いの DAW のトランスポート機能を操作します。また Shift ボタンを使うことで以下の機能も利用できます。

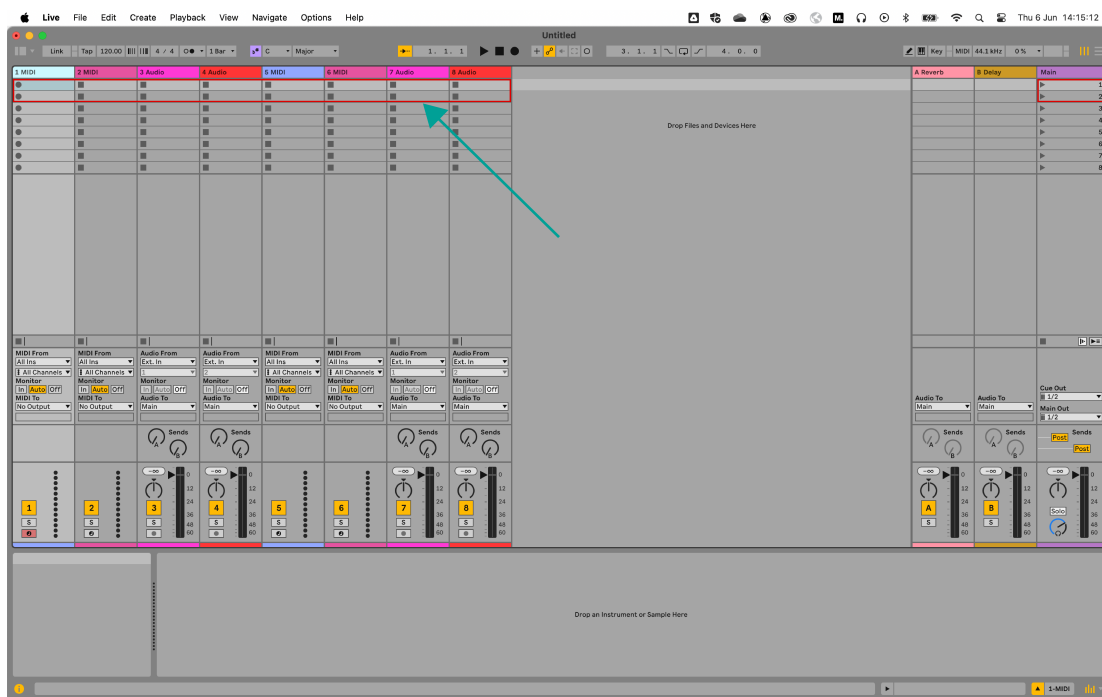
ボタン	機能	Shift 機能
再生 	再生の開始/停止	再生中の場合、一時停止します。
録音 	DAW のメインの録音機能をオン/オフします。	Capture MIDI 機能のオン/オフを切り替えます (対応 DAW で使用可能な「非録音時の MIDI 入力データを記録」機能)。

Ableton Live を Launchkey Mini 37 でコントロールする

Launchkey には 共通の DAW コントロールに加え、Ableton Live を最大限に活用するための特別な機能が統合されています。[48][48]

Ableton Live のナビゲーション

Launchkey をコンピュータに接続し Ableton Live を起動すると、2x8 個のクリップを囲むように枠 (フォーカスリング) が表示されます。この枠は、Launchkey の上段および下段の各パッド (2x8) に相当します。



トラックの変更

Ableton Live では、現在選択中のトラックがハイライト表示されます。Launchkey のエンコーダーなどで行ったトラック関連のすべてのコントロールは、選択中のトラックに対して実行されます。選択中のトラックを変更するには、Shift ボタンを押しながら Track <> ボタンのいずれかを押します。トラックを移動する際の動作は以下の通りです。

- ・ 新たに選択されたトラック名が Launchkey のディスプレイに表示されます。
- ・ トラックが「ソフトアーム」状態となり、すぐに演奏が行えます。
- ・ トラック関連のすべてのコントロール (Launchkey のエンコーダー) の操作は、新たに選択されたトラックに対して反映されます。

フォーカスリング (クリップを取り囲む枠) は、現在の選択範囲内にある 8 番目のトラックを超えて移動した場合にのみ移動します。

クリップ間の移動

フォーカスリング (クリップを取り囲む枠) を上下に動かしてトラック内の別のクリップを選択するには、パッド・アップ「^」/ダウン「v」ボタンを押します。

Ableton Live エンコーダーモード

Launchkey のエンコーダーモードは、ほとんどの場合 [共通の DAW エンコーダーモード](#) に従います。ただしプラグイン・コントロールでは、Ableton Live デバイスのより多くのパラメーターにアクセスできません。[50] [50]

Ableton Live プラグイン・エンコーダーモード

プラグイン・エンコーダーモードでは、選択中の各デバイスまたはインストゥルメントの 8 つのパラメーターをコントロールできます。

このエンコーダーモードを有効にすると、エンコーダーは最初の 8 つのパラメーターをコントロールします。エンコーダー・バンク・ボタンを押してページを切り替えることで、デバイス内のその他のパラメーターをコントロールできます。

デバイスを切り替える

Shift ボタンを押しながらエンコーダー・バンク・アップ/ダウン・ボタンを押すと、同じトラック内のデバイスを切り替えることができます。

デバイスを切り替えると、トラック名とデバイス名がディスプレイに表示されます。

Ableton Live のトランスポート・エンコーダーモード

トランスポート・エンコーダーモードを使うと、DAW のアレンジメント・ビューをエンコーダーで操作できます。これにより作業中のプロジェクトを自由にナビゲート可能になります。

このモードでは、各エンコーダーの機能が省略名でディスプレイに表示されます。

エンコーダー	機能	省略名
1	アレンジメント・ビューの再生位置	PlaybackPosition
2	横方向のズーム (再生位置を中心に)	Zoom Horizontal
3	縦方向のズーム (トラックの高さ)	Zoom Vertical
4	ループの開始点	Loop Start
5	ループの終了点	Loop End
6	マーカー選択	Marker Select
7	該当なし	
8	テンポ (BPM)	Tempo

プレイバック・ポジション

トランスポート・エンコーダーモードでは、エンコーダー 1 で再生位置をコントロールできます (スクラブ機能)。エンコーダーを回すと、アレンジウインドウ上の再生ヘッドが拍単位で左右に移動します。

このときディスプレイには現在の再生ヘッドの位置が、小節と拍として表示されます。

Ableton Live ズームコントロール

Ableton Live では、2 つのエンコーダーで縦方向のズームと横方向のズームをコントロールできます。

横方向のズーム

アレンジメント・ビューでトラックの高さをキープしたまま、再生位置を中心に横方向にズームイン/アウトを行います。

セッションビューでは、このエンコーダーでトラック間の移動が行えます。

縦方向のズーム

アレンジメント・ビューでは、このエンコーダーでトラックの高さを変更します。

セッションビューでは、このエンコーダーで選択中のクリップを上下に切り替えることができます。

ループの開始点および終了点

トランスポート・エンコーダーモードでは、エンコーダー 3 とエンコーダー 4 で DAW 内のループの開始点と終了点を設定できます。

エンコーダーを時計方向または反時計方向に回すと、各ループポイントが拍単位で前後に移動します。

ループポイントを変更すると、変更中のループポイントが小節と拍単位でディスプレイに一時的に表示されます。

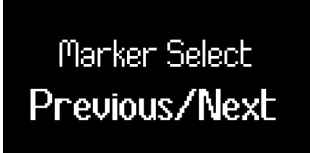
マーカー選択

トランスポート・エンコーダーモードでは、エンコーダー 5 で DAW の再生ヘッドを設定されたマーカー単位で移動できます。

エンコーダーを時計方向または反時計方向に回すと、再生ヘッドが前または後のマーカーに移動します。

マーカーを移動すると、移動したマーカー名がディスプレイに一時的に表示されます。

アレンジメントにマーカーを挿入していない場合は、エンコーダーを回しても再生ヘッドは移動しません。この場合ディスプレイに「No Markers」と表示されます。



Marker Select
Previous/Next

マーカーの追加方法は DAW によって異なります。お使いの DAW でマーカーを追加する方法は、各 DAW のユーザーガイドをご参照ください。

Ableton Live パッドモード

Launchkey は、Ableton Live 用の 3 つのパッドモードを備えます。

- Clip (クリップ) - クリップのローンチ
- Sequencer (シーケンサー) - Launchkey のパッドでクリップの MIDI シーケンスを調整します。
- Drum (ドラム) - Ableton Live のドラムラック・デバイスをコントロールします。

クリップまたはシーケンサーのモードにアクセスするには、Shift ボタンを押しながらパッド 9 (DAW) を 1 回 (クリップモード) または 2 回 (シーケンサーモード) 押します。DAW パッドを押した際、現在のパッドモードがディスプレイに表示されます。



Pad Mode
Clip 1/2



Pad Mode
Sequencer 2/2

ドラムパッドのモードにアクセスするには、Shift ボタンを押しながらパッド 10 (Drum) を押します。

Ableton Live クリップ・ローンチャー・パッドモード

Launchkey のクリップ・パッド・モードを使用すると、クリップのローンチ、停止、トラックのミュート、ソロを自在にコントロールでき、セッションビューをライブパフォーマンスに活用できます。

Ableton Live クリップ・パッドモード

クリップローンチのモードでは、Ableton Live のセッションビューで表示されるフォーカスリング (2x8 のクリップ枠) がパッド上で再現されます。各パッドがセッションビュー内のクリップをコントロールします。

パッドはそれぞれのステータスに応じて、点灯の仕方が異なります。

- ・ 無点灯のパッドは、スロットが空であることを示します。
- ・ クリップが存在する場合、パッドはクリップと同じ色に点灯します。
- ・ キューされたクリップはパッドが緑色でフラッシュし、クリップが再生されると緑色で点滅します。
- ・ 録音がキューされたクリップは、パッドが赤色でフラッシュし、録音が始まると赤色で点滅します。



シーン全体 (クリップの行) をローンチするには、上段のパッド右側にあるシーンローンチ> ボタンを押します。Ableton Live でシーンの色を設定している場合は、シーンローンチ・ボタンがシーンと同じ色に点灯します。

下段のパッド列を変更する

Function ボタンを使うことで、下段のパッドで操作する項目を変更できます。Function ボタンを押すたびに、各パッドが以下のコントロールに切り替わります。

- ・ Clip Launch (クリップローンチ - デフォルトのモード)
- ・ Stop (ストップ) モード [61] [61]
- ・ Mute (ミュート) モード [61] [61]
- ・ Solo (ソロ) モード [62] [62]

Ableton Live パッドモード : Stop

ストップモードでは、下段のパッドを押すことでトラックで再生中のクリップを停止できます。

ストップモードでは、各トラックの再生状況に応じて下段のパッドが赤く点灯します。トラック内のクリップが再生中は明るい赤に点灯し、トラック内でクリップが再生されていない場合薄い赤色に点灯します。ストップモード有効時は、Function ボタンが赤く点灯します。



Ableton Live パッドモード : Mute

ミュートモードでは、下段のパッドで各トラックのミュート状態を確認できます。パッドを押すとミュートのオン/オフが切り替わります。

ミュートモードでは、各トラックのミュート状況に応じて下段のパッドがオレンジ色に点灯します。アクティブなトラックのパッドは明るいオレンジ色に点灯し、ミュートされたトラックは薄いオレンジ色に点灯します。ミュートモード有効時は、Function ボタンがオレンジ色に点灯します。



Ableton Live パッドモード: Solo

ソロモードでは、下段のパッドを押すことで各トラックのソロのオン/オフを切り替えられます。

ソロモードでは、トラックのソロ状況に応じて下段のパッドが青色に点灯します。トラックのソロがオンの場合パッドは明るい青色に点灯し、ソロがオフの場合薄い青色に点灯します。ソロモード有効時は、Function ボタンが青色に点灯します。



Launchkey Mini 37 の Ableton シーケンサーを使用する

Launchkey Mini 37 で Ableton Live のクリップ・シーケンサーをハードウェア・コントロールできます。クリップ内のドラムパターンやノートシーケンスを Launchkey のパッドで入力したり、エンコーダーで調整することが可能です。

シーケンサーモードを有効にするには、Shift ボタンを押しながらパッド 9 (Drum) を押します。ディスプレイに「Pad Mode Sequencer 2/2」と表示され、シーケンサーモードであることを示します。

Pad Mode
Sequencer 2/2

シーケンサーモードをオンにすると、Ableton Live で選択した項目に応じてパッドが変化します。

選択中の MIDI トラック内でクリップが選択されていない場合

パッドは何も示しません。Ableton Live でシーケンスステップを追加すると、選択中のクリップに新たな MIDI クリップが作成されます。

選択中の MIDI トラック内でクリップが選択されている場合

選択中の MIDI クリップシーケンスがパッドで示され、シーケンスを編集できます (クリップにノートが入力されていない場合パッドは点灯しません)。

オーディオトラックが選択されている場合

パッドは何も示しません。このモードでは MIDI トラックでのシーケンス作成/編集のみが行えます。

Launchkey の Ableton シーケンサーのレイアウトとナビゲーション

Launchkey の 16 個のパッドが 16 ステップ・シーケンサーの各ステップを表し、クリップ内のシーケンスを常に確認できます。

ノートがアクティブなステップは、そのクリップが含まれるトラックの色に点灯します。クリップ再生中は、再生位置のステップに相当するパッドが白く点灯します。



矢印の方向にシーケンサーが走ります。

パッドの左側にあるアップ「 \wedge 」/ダウン「 \vee 」ボタンを用いることで 1~16、17~32、またはそれ以上のステップ表示を切り替えることができ、1 小節以上のステップを含むクリップのシーケンス作成/編集を Launchkey 本体で行えます。

また Function ボタンを押しながらダウン「 \vee 」ボタンを押すと、現在のクリップが倍の長さに複製されます。シーケンスのバリエーションを作成する際に便利な機能です。

Launchkey のメロディ/ドラムシーケンサー

プラグイン・インストゥルメントは、楽器の種類によってノートの入力方法が若干異なります。そのため Launchkey では、選択した MIDI トラックにインサートされたインストゥルメントに応じて、メロディまたはドラムの 2 種類のシーケンスを取り扱うことができます。

ドラムトラックが挿入された MIDI トラックを選択すると、ドラムシーケンサーが表示されます。ドラムシーケンサーは、選択中の各ドラム音 (スネア、キック等) 毎にノートシーケンスを表示します。選択中のドラムトラック・パッドを変更すると、パッドの点灯状態が変化します。

ドラム以外のインストゥルメントの場合、パッドはメロディー・シーケンサーとして動作します。ノートが入力されたすべてのステップをパッドの点灯で確認でき、ポリフォニックなシーケンスを作成できます。

Launchkey の Ableton シーケンサーでノートを入力する

ドラムとメロディーの 2 種類のシーケンサーでは、それぞれ異なる方法でノートを入力します。

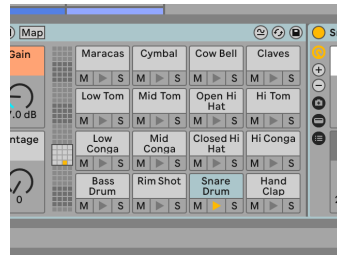
ドラムシーケンサー

この機能は、選択中の MIDI トラックに Ableton Live のドラムラック・デバイスがインサートされている場合に使用できます。

1. クリップを選択します。クリップが空の場合、パッドは点灯しません。クリップにノートが含まれる場合、アクティブなステップが点灯します。[67][67]
2. 編集したいドラムラック・パッドを選択します。目的の音が割り当てられている鍵盤(例：D1 = スネア)を押すことで、選択可能です。



Launchkey の D1 キーを押してスネアトラックを選択

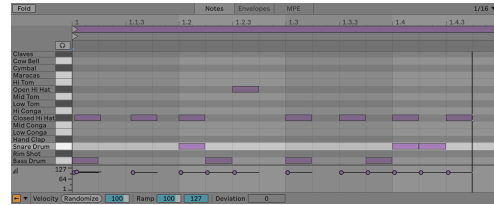


Ableton Live のドラムラックでスネアドラムが選択されている様子。

3. 目的のドラム音をトリガーさせたいステップ(パッド)をタップします。下図の例では、ステップ 5, 13, 14 がトリガーするステップとして追加されています。



スネアドラムが選択された Launchkey のパッド。



Ableton Live で選択したクリップの MIDI ノートエディターでスネアドラムが選択されている様子。

シーケンスからノートを削除するには、削除したいドラムパッドが割り当てられている鍵盤を押し、点灯しているステップのパッドを押します。

メロディ・シーケンサー

この機能は、ドラムラックを除く MIDI トラックのすべてのインストゥルメントで利用できます。

1. クリップを選択します。クリップが空の場合、パッドは点灯しません。クリップにノートが含まれる場合、アクティブなステップが点灯します。[67][67]
2. ノートは 2 通りの方法で入力できます。
 1. 入力したいノートまたはコードを鍵盤で押した後、追加したいステップのパッドを押します。Launchkey は最後に弾いた鍵盤を記憶するため、鍵盤を押し続ける必要はありません。鍵盤を押した後にパッドを押すと、該当するステップにノートまたはコードが登録されます。
 2. パッドを押しながら入力したいノートまたはコードを演奏します。



シーケンサーのノートを示す<0/>のパッド

Ableton Live の選択クリップ内 MIDI ノートエディター



ヒント

複数のパッドを同時に押すことで、複数のステップに対してノートやコードを追加できます。

ノートの複製

以下の手順で、ノートをクリップ内の別のステップに複製できます。

1.



Function
Duplicate

2. コピー元のステップを長押しします。
3. コピー先の空のステップを押します。

ノートシーケンサーのノート設定を調整する

Launchkey のシーケンサーから各ステップの設定を調整できます。

編集したいノートのパッドを長押しするとディスプレイに「Note Edit」が表示され、エンコーダー 1~4 で各パラメーターを変更できます。



Note Edit
Vel Len Fine Nudge

エンコーダー	ノート設定	説明
1	Velocity	ノートのベロシティを変更します。複数のパッドを長押しすることで、複数のノートのベロシティを同時に変更することもできます。
2	Length	ノートの長さをステップ単位で増減します。同じノートが次にトリガーされるステップまで長さを延長可能です。
3	Fine (Length)	ノートの長さを 0.1 ステップ単位で調整します。同じノートが次にトリガーされるステップまで長さを延長可能です。
4	Nudge	ノートを前後に移動します。-20%~+70%の範囲で調整可能です (クリップの開始/終了位置を超えて移動することはできません)。

Launchkey の Ableton シーケンサーでクリップを選択する

Launchkey のパッドでシーケンスを編集するためには、目的の MIDI クリップを選択する必要があります。MIDI クリップの選択は Ableton Live 内でマウスで選択するだけでなく、以下の手順で Launchkey から直接選択することもできます。

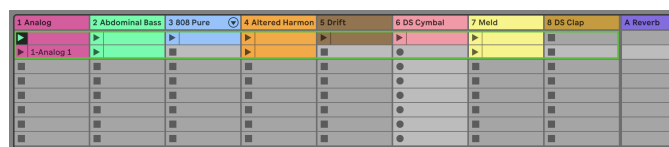
1. 上段のパッド右側にあるシーンローンチ・ボタンを押します。ディスプレイに「Sequencer Select Clip」が表示されます。



フォーカスリング内で利用可能なクリップがパッドにクリップの色で表示されます。アップ「^」/ダウン「v」ボタンおよび Track <> ボタンでフォーカスリングを移動できます。



選択可能なクリップが Launchkey のパッドに表示されている様子。空のスポットは赤く点灯します。



Ableton Live のセッションビューで選択中の 8トラックにフォーカスリングが表示されている様子。

2. パッドを押すとクリップ内のステップが表示され、シーケンスを編集できます。選択したクリップの種類に応じて以下の動作が実行されます。
 - ・ MIDI クリップをタップするとステップ入力ビューが表示され、シーケンスの編集が行えます。
 - ・ 空の MIDI クリップをタップすると対応するスポットに新規シーケンスが作成されます。ステップ入力ビューが表示され、シーケンスの編集が行えます。
 - ・ オーディオトラックでは、クリップをタップしても何も起きません。シーンローンチ・ボタンを再度押すと、直前のシーケンスに復帰します。

Ableton Live トランスポート・コントロール

Launchkey のトランスポート・セクションは、「共通の DAW コントロール」の [トランスポート](#) に記載される通りに動作します。ただし録音ボタンのみ動作が異なります。[55] [55]

Ableton Live の録音ボタン

Launchkey の録音ボタンは、Ableton Live で表示中のビューに応じて挙動が異なります。

- ・ セッションビューでは、録音ボタンを押すと選択中のクリップのレコーディングが開始されます。
- ・ アレンジメント・ビューでは、録音ボタンを押すとアームされているすべてのトラックのレコーディングが開始されます。

Ableton Live グローバルスケール

Launchkey は、Ableton Live のスケールモードと同期します。

スケールを変更、または Live セットを開くと、スケールが Launchkey に送信され、Launchkey のコードモードが Live セットに追従します。

Logic Pro を Launchkey Mini 37 でコントロールする

Launchkey には 共通の DAW コントロールに加え、Logic Pro を最大限に活用するための特別な機能が統合されています。[48][48]

Logic Pro : エンコーダーモード

プラグインモード

プラグイン DAW モードでは、Logic Pro で選択中のプラグインやインストゥルメントの Smart Control を Launchkey のエンコーダーで操作できます。

エンコーダーを回すと、トラック名、パラメーター、値がディスプレイに表示されます。

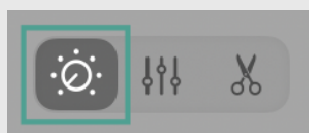


プラグインまたはインストゥルメントが 8 つ以上の Smart Control を備える場合は、エンコーダーバンク・ボタンでページを切り替えることができます。



ヒント

Smart Control は、Logic Pro 画面の左上の Smart Control ボタン、またはキーボード・ショートカット「B」でアクセスできます。



Logic Pro ミキサーモード - EQ

Logic Pro のミキサー・エンコーダー・モードは、3つのページを備えます。最初の2ページでは DAW 共通のミキサーモード、ボリューム、パンをコントロールできます ([Launchkey Mk4 - DAW Control: Mixer Mode](#) 参照)。3ページ目では、Logic Pro の EQ プラグインをコントロールできます。

EQ ミキサーモードを使用するには、エンコーダー・バンク・ダウン「V」ボタンを押します。トラックに EQ プラグインがインサートされていない場合は、選択中のトラックに EQ がインサートされます。

ミキサー EQ モードになると、ディスプレイに「Mixer EQ」が一時的に表示されます。エンコーダーを回すと、トラック名、EQ パラメーター名と値がディスプレイに表示されます (周波数は Hz、ゲインは dB 単位)。

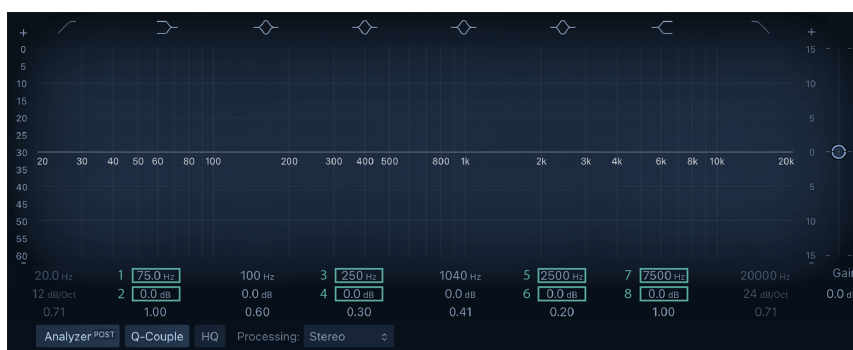


Logic Pro の Mixer EQ エンコーダーモードに切り替えたときの画面表示。



High Mid のバンド周波数をエンコーダー 5 で調整中の様子。

EQ ミキサーモードを有効にすると、各エンコーダーに Logic Pro の EQ パラメーターが割り当てられます。



エンコーダー	パラメータ	ディスプレイ表示名
1	バンド 2 周波数	Low Shelf
2	バンド 2 ゲイン	Low Shelf
3	バンド 4 周波数	Low Mid
4	バンド 4 ゲイン	Low Mid
5	バンド 6 周波数	High Mid
6	バンド 6 ゲイン	High Mid
7	バンド 7 周波数	High Shelf
8	バンド 7 ゲイン	High Shelf



ヒント

各エンコーダーの EQ モードを覚えるコツ：奇数番号のエンコーダーはバンド周波数を、偶数番号のエンコーダーはバンドゲインをコントロールします。

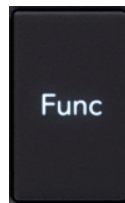
Logic Pro パッドモード

DAW モード

Logic Pro では、DAW パッドモードが 2 つのサブモードに分かれています。

- ミキサー (選択/アーム/ソロ/ミュート)
- Live Loops

サブモードを切り替えるには、Function ボタンを押します。



サブモードを変更すると、変更されたパッド機能がディスプレイに一時的に表示されます。



Logic Pro ミキサー・パッドモード

ミキサーモードでは、選択、録音アーム、ソロ、ミュートをパッドで実行できます。

ページ 1 の上段のパッドは各トラックの色に点灯し、パッドを押すことでトラックを選択できます。下段のパッドは録音アームのオン/オフを切り替えます。明るい赤色の点灯は、トラックが録音待機状態であることを、薄い赤色の点灯はトラックが録音待機状態でないことを示します。

ページ 2 では、上段のパッドでソロ、下段のパッドでミュートが行えます。

選択/アーム (Select/Arm) とソロ/ミュート (Solo/Mute) のページを切り替えるには、パッド・バンク・アップ「∧」/ダウン「∨」ボタンを押します。



Logic Pro の Select/Arm パッドモード



Logic Pro の Solo/Mute パッドモード

デフォルトのパッドモードは、選択/アーム (Select/Arm) です。

<Track および Track> ボタンを使うと、パッドでコントロールするトラックを 1 トラックずつ移動できます。



注記

ミキサーモードでは、すべてのセンドまたはマスタートラックも表示され、通常のトラックと同様の方法でミュート/ソロを設定できます。

Live Loops モード

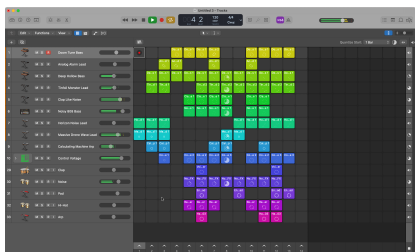
Live Loops モードでは、Launchkey で各ループをコントロールできます。シーンボタンで一連のループをトリガーすることも可能です。

上段のパッドは、ループをコントロールします。

下段のパッドは、シーンをコントロールします。

ループパッド

上段のパッドは選択中のトラックのループを示します。パッドの色は、Logic Pro 内のループと同じ色に点灯します。



Logic Pro の Live Loops セッションでトラック 1 が選択されている様子



パッドがループの色に点灯。



ヒント

Logic Pro でループの色を変更するには、View > Show Colors > Select a Loop にて変更したい色をクリックします。

パッドを押すと、ループが再生します。ループ再生中、パッドは緑色に点滅します。

ループを停止するには、再生中のループパッドを押します。

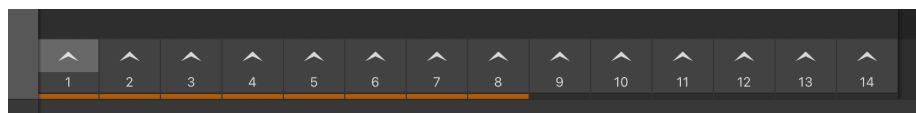
同じ行の別のパッドを押すと、次のループに切り替わります。次のループは、Live Loops ウィンドウ右上にある「クオンタイズ開始」の設定に応じたタイミングで開始されます。

Quantize Start: 1 Bar

ループを録音するには、空のループスロット (非点灯のパッド) を押します。ループの録音中はパッドが赤色に点滅します。パッドを再度押すと、ループ録音が停止し、ループ再生が開始されます。

シーンパッド

下段のパッドを押すと、シーンがトリガーされます。Logic Pro の Live Loops では、シーンはループの列、つまり各トラックのループを指します。



Logic Pro のページ下部にある Live Loops シーンボタン。オレンジ色のバーは、Launchkey の 8 つのパッドに対応するシーンを示しています。



Launchkey Mini 37 の下段のパッドは、Logic Pro の Live Loops シーンをトリガーします。



注記

シーンのトリガーによって空のループスロットの録音が始まることは **ありません**。

再生中のすべてのループパッドは、緑色の点滅でループ状態であることを示します。トラックをナビゲート (参照: [Logic Pro Live Loops モードのナビゲーション \[75\]](#)) することで、シーンの中で再生中のループを確認できます。

Logic Pro Live Loops モードのナビゲーション

Live Loops モードでは、パッド左側にあるアップ「^」/ダウン「v」ボタンでトラック間を移動します。

Track <> ボタンでループ/シーンを左右にスクロールできます。

トラックやシーンを移動する際、パッドの色は Live Loops セルの色にリアルタイムに追従します。

Cubase を Launchkey でコントロールする

Launchkey には 共通の DAW コントロールに加え、Cubase を最大限に活用するための特別な機能が統合されています。[48][48]

Launchkey の各デフォルトモードは、以下の通りです。

- エンコーダーモード - Plugin
- パッドモード - DAW

Launchkey の各コントロールが何を制御するかの情報は、Cubase ウィンドウ下部の MIDI リモートで確認できます。



ヒント

よりオーディオ制作業務に特化した DAW、Steinberg Nuendo のコントロールにも対応します。基本的な操作方法は Cubase と同様です。

Logic Pro : エンコーダーモード

Cubase のプラグイン・エンコーダーモードを使用する

プラグインモードでは、Launchkey のエンコーダーは Cubase の 8 つのクイック・コントロールに割り当てられます。

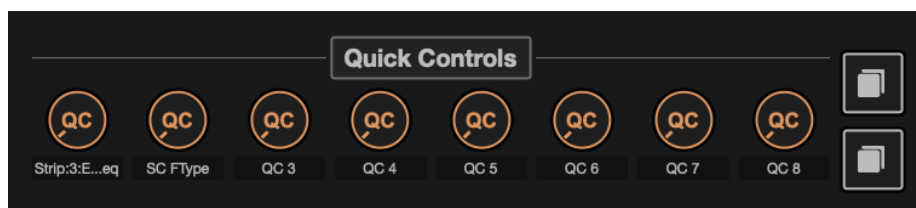
Cubase のクイック・コントロールは、トラック毎に動作します。各エンコーダーは、選択中のトラックに設定したクイック・コントロールに基づいて割り当てられます。



ヒント

Cubase の各トラックのクイック・コントロールを割り当てるには、[Cubase ユーザーガイドのトラックのクイック・コントロールに関する章](#)をご参照ください。

Cubase の MIDI リモートセクションにて、クイック・コントロールの割り当てを確認できます。



エンコーダーを回すと、クイック・コントロール名とその値がディスプレイに一時的に表示されます。



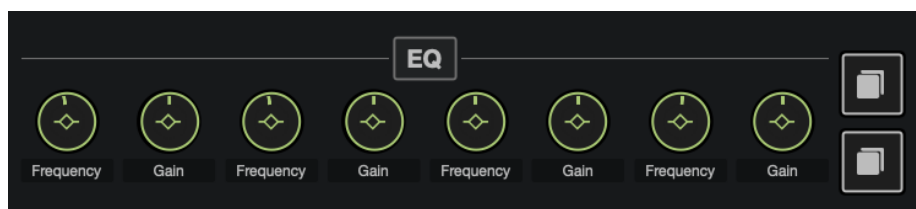
Cubase のエンコーダーモード Mixer EQ を使用する

Cubase のミキサー・エンコーダー・モードは、3つのページを備えます。最初の2ページでは DAW 共通のミキサーモード、ボリューム、パンをコントロールできます (参照: [Launchkey Mk4 - DAW Control: Mixer Mode](#))。3ページ目では、Cubase のチャンネル・ストリップの EQ プラグインをコントロールできます。

Cubase の EQ をコントロールするには、エンコーダーバンク・ボタンを押し、Mixer EQ ページを開きます。




このページでは、各エンコーダーが以下の様に割り当てられます。



エンコーダー	パラメータ	ディスプレイ表示名
1	バンド1 周波数	Lo Freq
2	バンド1 ゲイン	Lo Gain
3	バンド2 周波数	LMF Freq
4	バンド2 ゲイン	LMF Gain
5	バンド3 周波数	HMF Freq
6	バンド3 ゲイン	HMF Gain
7	バンド4 周波数	Hi Freq
8	バンド4 ゲイン	Hi Gain



ヒント

Cubase のチャンネルストリップを開くには、MixConsole を開き、編集したいトラックでチャンネル設定編集ボタン 

Cubase パッドモード

Cubase で DAW パッドモードを使用する

DAW パッドモードでは、2 ページのパッドを利用できます。

- ・ ページ 1 - 選択およびアームのコントロール
- ・ ページ 2 - ミュートおよびソロのコントロール

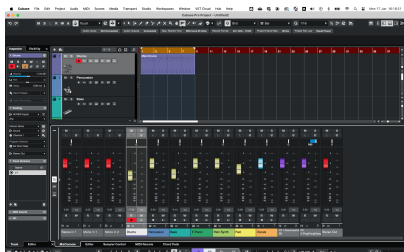
パッド左側にあるアップ「∧」 / ダウン「∨」 ボタンを押すと、ページを切り替えることができます。

ページを切り替えると、パッドの設定項目がディスプレイに一時的に表示されます。



選択/アームページでは、上段のパッドがトラックの色に点灯し、パッドを押すことでトラックを選択できます。

下段のパッドは各トラックの録音アームのオン/オフを切り替えます。トラックがアームされると、パッドが明るい赤色に点灯します。アームされていないパッドは薄い赤色に点灯します。



Cubase でトラック 1 を選択。録音アームがオンに設定された様子。



Launchkey Mini 37 のパッドに、Cubase の選択トラックと録音アーム状態が反映されている様子。

ページ 2 の上段のパッドは、ソロのオン/オフを設定します。ソロに設定されたトラックのパッドが明るいピンク色に点灯し、ソロが無効のトラックのパッドは薄いピンク色に点灯します。

下段のパッドは、ミュートのオン/オフを設定します。ミュートされたトラックのパッドは明るい黄色に点灯し、ミュートが解除されているトラックのパッドは薄い黄色に点灯します。



Cubase の MixConsole トラックでミュート/ソロのステータスが表示されている様子。



Launchkey Mini 37 のパッドに、Cubase のミュート/ソロのステータスが反映されている様子。

FL Studio を Launchkey Mini 37 でコントロールする

Launchkey には 共通の DAW コントロールに加え、FL Studio を最大限に活用するための特別な機能が統合されています。[48][48]

FL Studio エンコーダーモード

FL Studio プラグイン・エンコーダーモード

プラグインモードでは、FL Studio で選択中のプラグインに含まれる 8 つのパラメーターを Launchkey のエンコーダーでコントロールできます。ほとんどの FL Studio 純正プラグインは、Launchkey のエンコーダーモードに対応しています。



注記

FL Studio 純正プラグインのパラメーター・マッピングは変更できません。サードパーティー製プラグインでは、カスタム・エンコーダー・モードを使う事でマッピングを自由に作成できます。

FL Studio ミキサー・エンコーダー・モード

ミキサー・エンコーダーモードでは、Launchkey で FL Studio の Channel Rack、ミキサー、EQ をコントロールできます。5 ページのコントロールを利用でき、エンコーダーバンク・ボタンでコントロール間を移動できます。

ページ	ミキサーモード
1	Channel Rack ボリューム
2	Channel Rack パン
3	Mixer Volume
4	Mixer Pan
5	EQ

FL Studio Channel Rack ボリューム

エンコーダーは、Channel Rack のミキサーボリュームをコントロールします。



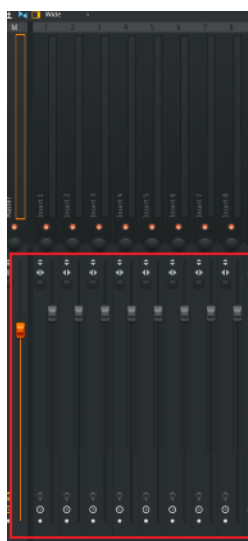
FL Studio Channel Rack パン

エンコーダーは、Channel Rack のミキサーパンをコントロールします。



FL Studio ミキサー・ボリューム

エンコーダーは、ミキサーセクションのボリュームをコントロールします。



FL Studio ミキサー・パン

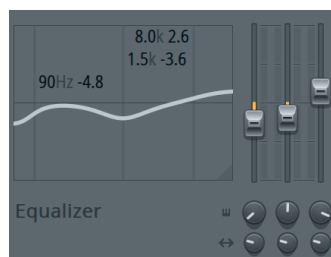
エンコーダーは、ミキサーセクションのミキサーパンをコントロールします。



FL Studio Mixer EQ コントロール

FL Studio の EQ をコントロールする場合、エンコーダーは以下の EQ パラメーターに割り当てられます。

エンコーダー	パラメータ	ディスプレイ表示名
1	バンド 1 周波数	Low Shelf
2	バンド 1 レベル	Low Shelf
3	バンド 2 周波数	Peaking
4	バンド 2 レベル	Peaking
5	バンド 3 周波数	High Shelf
6	バンド 3 レベル	High Shelf



FL Studio DAW パッドモード

DAW パッドモードは、最大 16 チャンネルの Channel Rack を選択できる Channel Rack セレクターとして動作します。それぞれのパッドが各チャンネルの Channel Rack に相当し、パッドを押すことで C5 のノートがトリガーされます。各パッドは、割り当てられたチャンネルの色に点灯します。

パッドを押すと、FL Studio で該当するチャンネルが選択され、オーディオがトリガーされます。選択中の Channel Rack に相当するパッドは白く点灯し、LCD 画面にチャンネル名が一時的に表示されます。FLkey では、一度に 1 つのチャンネルを選択可能です。FL Studio でチャンネルが選択されていない場合、パッドは白く点灯しません。

パッドのレイアウトは 8x2 行で、左から右、下段から上段の順に並んでいます。下段のパッドのチャンネルは Channel Rack のパン/ボリュームノブのレイアウトに対応します。

Launchkey Mini 37 仕様

重量および寸法

重量	1.02 kg (2.25 ポンド)
高さ (エンコーダーを含めた高さ)	49 mm (1.93 インチ)
幅	478 mm (18.81 インチ)
奥行	177 mm (6.96 インチ)



技術仕様

Launchkey Mini 37 と Launchkey シリーズのその他のモデルとの違いは、以下の表の通りです。

コントロール	Launchkey Mini 25 および Launchkey Mini 37	Launchkey 25 および Launchkey 37	Launchkey 49 および Launchkey 61
ピッチおよびモジュレーション	タッチストリップ・コントロール x2	ホイール x2	ホイール x2
キーボード	25/37 鍵シンセアクション・ミニ鍵盤	25/37 シンセアクション鍵盤	49/61 セミウェイテッド鍵盤
ペロシティ・センシティブ鍵盤	搭載	搭載	搭載
ドラムパッド	16	16	16
ポリアフタータッチ対応ペロシティ・センシティブ・パッド	搭載	搭載	搭載
エンコーダー	8	8	8
フェーダー	-	-	9
フェーダーボタン	--	-	9
トランスポート・ボタン	再生 録音	停止 ループ 再生 録音	停止 ループ 再生 録音
ワークフローボタン	-	キャプチャ MIDI アンドゥ (リドゥ) クオンタイズ メトロノーム	キャプチャ MIDI アンドゥ (リドゥ) クオンタイズ メトロノーム

その他の情報

トラブルシューティング

Launchkey を使い始めるためのヘルプが必要な場合は、こちらをご参照ください：

novationmusic.com/get-started

Launchkey に関して不明な点がある場合には、いつでもヘルプセンターをご利用いただけます。また、以下の URL からサポートチームにお問い合わせいただくことも可能です：

support.novationmusic.com

のアップデートを確認することをお勧めします。Launchkey 最新の機能と修正が適用されます。を更新するには Launchkey のファームウェアを使用する必要があります。コンポーネント：

[コンポーネント.novationmusic.com](https://novationmusic.com)

商標

Novation の商標は Focusrite Audio Engineering Ltd. の所有物です。本マニュアルに記載されているその他すべてのブランド名、製品名、会社名、およびその他の商標登録または商標は、それぞれの所有者に帰属します。

免責事項

Novation は、本マニュアルに記載されている情報が正確で完全であることに万全を期しております。本マニュアルまたは記載されている機器の使用に起因する機器、第三者または機器の所有者に対する損失または損害について、Novation はいかなる場合も責任を負いません。本マニュアルに記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。仕様および外観は、リストおよび例示されているものとは異なる場合があります。

著作権および法定通知

Novation は Focusrite Group PLC の登録商標です。Launchkey は Focusrite Group PLC の商標です。

その他すべての商標および商品名はそれらの個別の所有者の財産です。

2023 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。



静電放電 (ESD) について

強力な静電放電 (ESD) が本製品の正常な動作に影響を及ぼす場合があります。その場合には、USB 接続を解除・再接続して再起動することで、正常な動作に戻ります。

謝辞

Novation は、本製品のために尽力してくれた以下の Launchkey MK4 チームメンバーに感謝いたします。

Aarron Beveridge、Adam Able、Adam Briffa、Adrien Fauconnet、Alex Wu、Andre Cerqueira、Arnav Luthra、Ben Bates、Conor Boyd、Dan Mitchell、Dan Stephens、Daniel Clarke、Daniel Johnson、Daniel Kay、Danny Nugent、Dave Curtis、Davide Cuoghi、Ed Fry、Eddie Judd、Ellen Dawes、Emma Davies、Emma Fitzmaurice、Gagan Mudhar、Greg Zielinski、Hannah Budworth-Mead、Hannah Williams、Jake Helps、Jan Krutisch、Jason Cheung、Joe Deller、Julian Mountford、Kai Van Dongen、Lewis Williams、Lola Muresan、Loz Jackson、Mario Buoninfante、Martin Haynes、Mobashir Ahmed、Mukesh Lavingia、Nicholas Howlett、Nick Bookman、Nick Van Peteghem、Ollie Russell-Pearcey、Paul Mansell、Pierre Ruiz、Richard Collard、Robert Briggs、Rudy McIntyre、Ryan Gray、Sam Counihan、Samuel Price、Sandor Zsuga、Si Halstead、Skye Stephenson、Stefan Archer、Taavi Bonny、Taren Gopinathan、Tom Carter、Tom Harrington、Vidur Dahiya、Vini Moreira、Wade Dawson、Will Charlton、Will Cunningham-Booth

著者はエド・フライ。